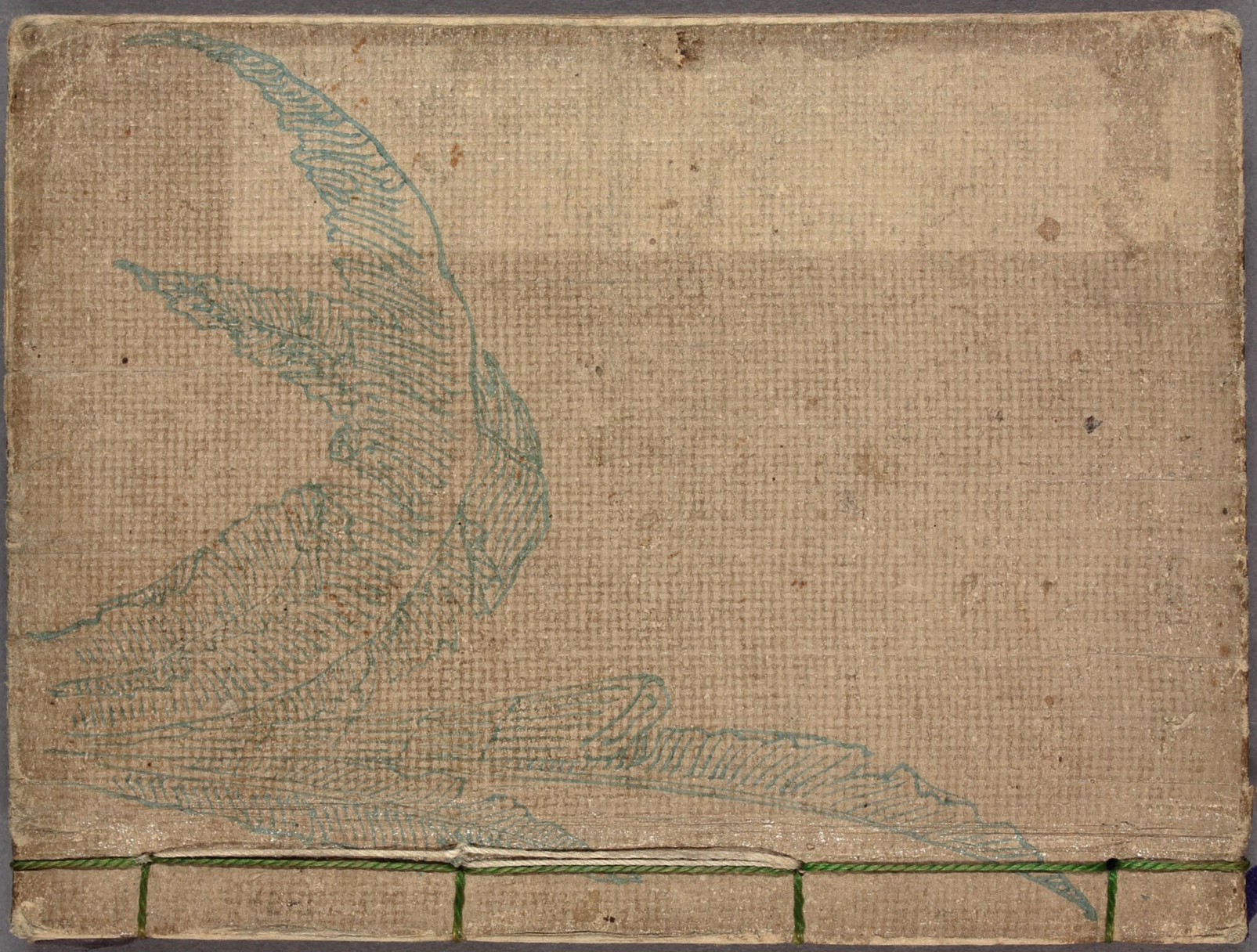


栗菴宇山編輯
一事菴史栞校正

現存名家俳諧大陽六百題

東京書林　文苑閣發兌

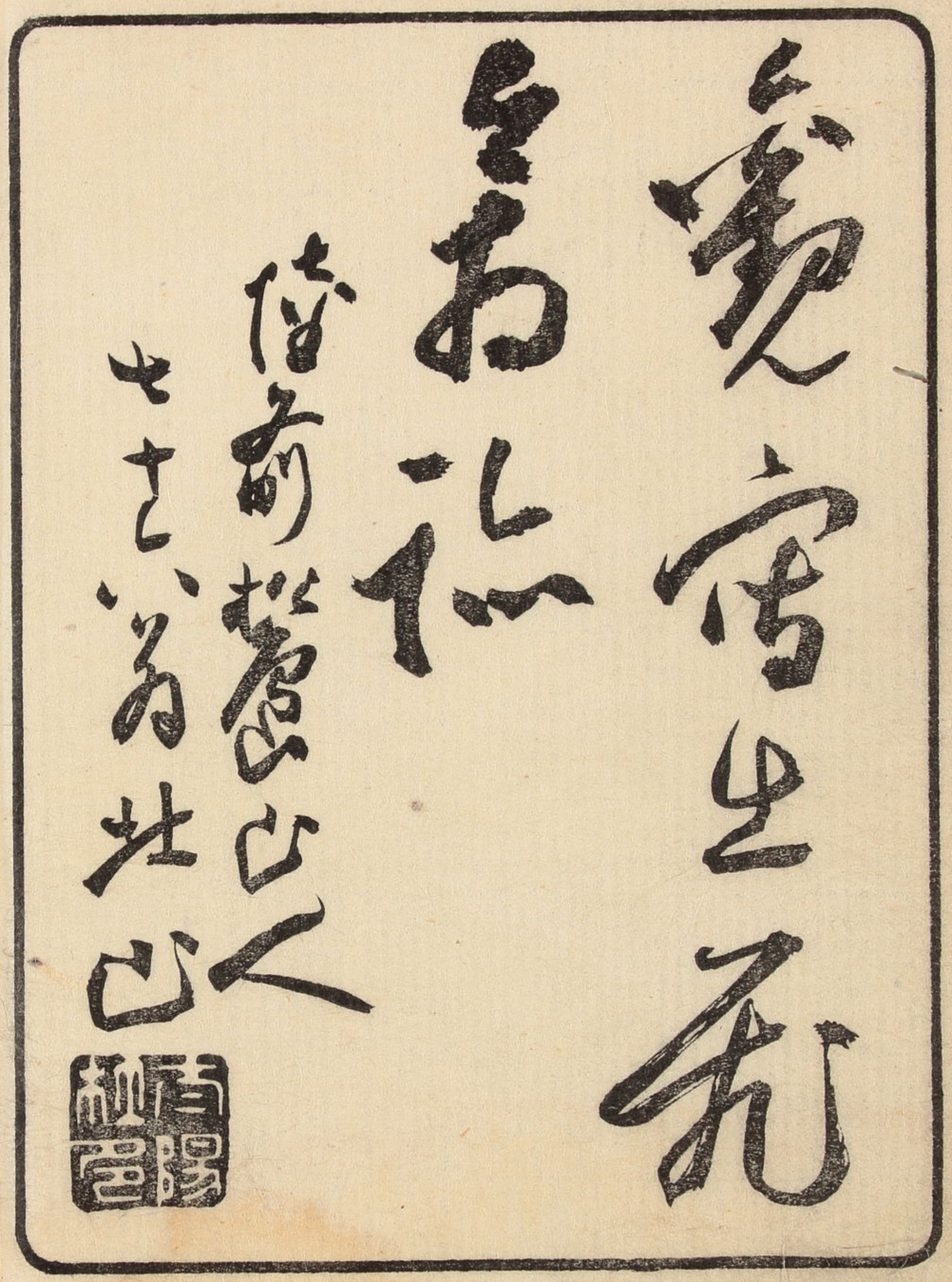
帝室圖書寮

行脚俳諧
流水拝絶

現存名家俳諧大陽六百題目録

一月之部

歳旦 一	年立 一	新年 一	初年 一
新玉 一	年花 二	改年 一	今年 二
一月 二	睦月 三	一日 三	去年今年 二
初明 四	初空 四	初霞 四	日の始 三
初鳥 五	御降 五	初暦 五	若水 六
初湯 六	彈初 六	寶船 六	初夢 七
帳初 七	初荷 七	賣初 七	筆始 七
三ケ日 八	松の内 八	恵方 八	着衣始 八
喰積 九	年禮 九	御慶 九	年始 九
福沸 九	屠蘇 十	歯固 十	雜煮 十
寐擧 十	門松 十一	松飾 十一	飾竹 十一
			注連飾 十一
			福藁 九
			寢積 十



輪飾 十一　飾海老 十一　飾藁 十一　太箸 十二　庭竈 十二
裏白 十二　橙 十二　水柑 十二　年男 十三　萬歲 十三
掾曳 十三　俤儡師 十三　懸想文 十三　小殿原 十四　數の子 十四
鏡餅 十四　娵ヶ君 十四　福壽草 十四　氷撲 十五　國栖奏 十五
懸鯛 十五　腹赤魚 十五　螺肴 十五　番卸 十五　網曳 十五
羽子 十五　手鞠 十六　人日 十六　七種 十六　粥柱 十六
粥杖 十六　若菜粥 十六　若菜 十六　芹薺 十七　佛の坐 十七
子の日 十七　小松曳 十七　常陸帶神事 十七　削懸 十七　左義長 十八
爆竹 十八　養父入 十八　骨正月 十八　御忌 十八　寒の入 十八
寒月 十九　寒菊 十九　寒梅 十九　寒椿 十九　探梅 十九
寒聲 十九　寒念佛 十九　春待 十九　春近 二十　春隣 二十
二月之部
二月 二十　春立 二十　餘寒 二十　春寒 二十一
冴返 二十一　春雪 二十一　淡雪 二十一　雪解 二十二　浮氷 二十二
霞 二十二　長閑 二十三　暖 二十三　水温 二十四　日永 二十四
遲日 二十四　佐保姫 二十四　山笑 二十四　東風 二十五　春風 二十五
春雨 二十五　木地炉縁 二十六　下萌 二十六　莖立 二十六　落薹 二十六
土筆 二十六　若草 二十七　木の芽 二十七　梅 二十七　梅柳 二十八
柳 二十八　青柳 二十九　椿 二十九　田打 三十　畑打 三十
山葵 三十　獨活 三十　白魚 三十　猫の戀 三十一　鶯 三十一
百千鳥 三十二　鶯 三十二　雲雀 三十二　駒鳥 三十三　囀 三十三
蜆 三十三　海苔 三十三　若和布 三十四　二日灸 三十四　初午 三十四
八巾 三十四　薪能 三十四　芝能 三十五　涅槃 三十五　世を去る仏 三十五
西行忌 三十五　春宵 三十五　春夜 三十五　春月 三十五　朧月 三十六
朧夜 三十六　春空 三十六　春 三十七　弥生 三十七
三月之部

雛 三十七
社日 三十八
焼野 三十九
帛杖 四十
紅梅 四十
初櫻 四十一
三月菜 四十二
雁別 四十三
松毫鳥 四十五
蛇穴出 四十七
七生躍 四十七
春の山 四十九
草餅 三十七
治聾酒 三十八
五加木 三十九
野蒜 四十
接木 四十
糸櫻 四十二
菜の花 四十三
春雁 四十三
蛙 四十五
田螺 四十七
梅若祭 四十八
曲水 三十八
出代 三十八
種卸 三十九
摘草 四十
芦の角 四十一
芽花 四十二
乙鳥 四十三
春鳥 四十三
蜂の巣 四十六
馬刀 四十七
順の峰 四十八
鶏合 三十八
彼岸 三十九
苗代 三十九
拘杞 四十
蕨 四十一
桃 四十二
雉子 四十三
雀子 四十三
初蝶 四十六
落角 四十七
御身拭 四十八
初雷 三十八
松の花 三十九
菊苗 四十
狗脊 四十
初花 四十一
竹の秋 四十二
歸雁 四十三
孕雀 四十三
蝶 四十六
鮒鱠 四十七
春水 四十八
青簾 四十九

四月之部

四月 四十九
卯月 四十九

鍋祭 五十
蛤 五十一
石楠花 五十三
堇 五十五
若鮎 五十六
田鼠化成鶉 五十七
別霜 五十七
懺 五十九
藥降 六十
綿抜 六十
古茶 六十一
冷汁 六十一
灌佛 五十
待花 五十一
蹴躅 五十三
青麥 五十五
小鮎 五十六
蠶 五十七
惜春 五十八
粽 五十九
競馬 六十
初袷 六十
生節 六十二
煮冷 六十二
花御堂 五十
櫻 五十三
茶摘 五十三
蘭 五十五
櫻鯛 五十六
喚子鳥 五十六
爐塞 五十七
行春 五十八
柏餅 五十九
大矢數 六十
袷 六十一
新麥 六十二
鮨 六十二
佛の産湯 五十
躑躅花 五十三
山吹 五十五
櫻貝 五十六
麥鶉 五十六
試茶 五十七
五月之部
菖浦葺 五十九
印地打 六十
夏衣 六十一
勢 六十二
牡丹 六十三
汐干 五十
辛夷 五十三
五月 五十八
鞦韆 五十七
神水 五十九
更衣 六十
新茶 六十一
青さし 六十二
餘花 六十四

桑櫻 六十四
櫻の實 六十四
若葉 六十四
若楓 六十五
病葉 六十五
新樹 六十五
茂 六十五
木下闇 六十五
夏木立 六十六
卯の花 六十六
桐の花 六十六
椶の花 六十六
橘の花 六十七
花柚 六十七
竹の子 六十七
杜若 六十七
花菖蒲 六十八
芥子 六十八
葱 六十八
帝耳草 六十九
蕗 六十九
美人草 六十九
一八 六十九
壬巻芭蕉 六十九
夏草 六十九
麥秋 六十九
麥苅 六十九
五月雨 六十九
竹醉日 七十
帝ヶ雨 七十
夏籠 七十
夏書 七十
短夜 七十
明易 七十一
夏夜 七十一
時鳥 七十一
老鶯 七十一
附子鶯 七十二
剖葺鳥 七十二
行々子 七十二
青鷺 七十二
閑子鳥 七十三
通鴨 七十四
鶉飼 七十四
翡翠 七十四
蚊 七十五
蚊柱 七十五
蚤 七十五
蠅 七十五
蚋 七十六
蛭 七十六
螢 七十六
蚊遣 七十六
蝙蝠 七十七
枝蛙 七十七
蝸牛 七十七
羽蟻 七十七
子子 七十八
水馬 七十八
舞々 七十八
松魚 七十八
團扇 八十
夏の露 八十一
入梅 八十二
雷の陣 八十三
苗 八十四
紅の花 八十五
石菖 八十六
桑摘 八十六
若竹 八十七
鹿の子 八十九
晒布 九十

七月之部

文月 一

七夕 一　星合 一　星
貸小袖 二　立琴 二　硯洗 二
魂祭 三　魂棚 三　生身魂 三
栁経 三　苧売賣 三　草市 四
門茶 四　盆月 四　燈籠 四
経水流 五　不二詣 五　土用 六
夏氷 六　炎天 六　日盛 六
涼 七　納涼 八　納涼臺 九
青嵐 九　夕立 九　泉 九
清水 十　川狩 十一　金魚 十一
夏坐敷 十二　晝寢 十二　抱籠 十二
汗 十三　夏疲 十三　青田 十四
鵲 一　天の川 一
迎鍾 二　迎火 三
刺鯖 三　蓮飯 三
鼠尾草 四　攝待 四
鬼灯 五　大文字 五
土用干 六　氷室 六
雲の峯 七　風薫 七
青東風 九
井浚 十　打水 十
暑 十一　一夜酒 十二
竜枕 十二　竹婦人 十三
田草取 十四　夕顔 十四

旋花 十五　鷺草 十五　時計草 十五
瓜 十六　百日紅 十六　竹の皮 十六
心太 十七　水肴 十七　沖鱠 十七
立秋 十七　初秋 十八　今朝の秋 十九
初涼 十九　花火 十九　稲妻 二十
霧 二十二　初嵐 二十二　秋風 二十二
捨團扇 二十四　燒米 二十四　相撲 二十四
木槿 二十五　渋柿 二十五　蕣 二十六
茶花 二十八　藤袴 二十八　桔梗 二十八
芒 二十八　芭蕉 二十九　鳳仙花 二十九
草花 三十　野菊 三十　蔦 三十
蒲萄 三十一　西瓜 三十一　糸瓜 三十一
蓮 十五　毛虫 十七　秋暑 十九
稲光 二十一　露 二十一　秋茄子 三十一
置扇 二十四　忘扇 二十三　萩 二十八
散柳 二十五　桐一葉 二十四　相撲草 二十九
女郎花 二十七　萩 二十八　曼珠沙華 二十九
番椒 三十　鬼灯 三十　早稲 三十一

八月之部

稲の花 三十一
虫 三十二
蓑虫 三十四
蚯蚓 三十五
秋蝶 三十六
鳩吹 三十六
鳴子 三十八
沙魚 三十九
龍田姫 四十
秋の空 四十一
今日の月 四十三
初汐 四十五
粟 三十二
鈴虫 三十三
茶立虫 三十四
螻 三十五
秋の蝿 三十六
鴫 三十七
引板 三十九
鹿 三十九
秋の山 四十
秋の月 四十二
月今霄 四十三
放生會 四十五
蜀黍 三十二
松虫 三十三
蜩 三十四
竈馬 三十五
殘蚊 三十六
鶉 三十七
鳴竿 三十九
秋の悔 四十
悔別 四十
秋の川 四十一
初月 四十二
月見 四十三
秋の夜 四十五
綿取 三十二
轡虫 三十三
秋の蟬 三十四
秋螢 三十五
蠅 三十六
鷄 三十八
鳥刺 三十九
司 四十
秋の水 四十一
待宵 四十二
十六夜 四十四
秋の雨 四十五
桃吹 三十二
蟋蟀 三十三
蟷螂 三十五
靖蛉 三十五
鷹山別 三十六
素山子 三十八
鰯引 三十九
名月 四十二
月 四十四
秋の鍾 四十六

秋 四十六
十三夜 四十七
竹の春 四十八
身に入 四十九
木犀 五十
露草 五十一
蕎麥花 五十二
木の子 五十三
稲雀 五十四
雁 五十四
渋鮎 五十六
芎藭 五十六

九月之部

九月 四十六
後の月 四十七
夜長 四十八
彼岸 四十九
芙蓉 五十
尾花 五十一
若萱 五十二
松茸 五十三
小田守 五十四
渡鳥 五十五
落鮎 五十六
砧 五十六
二百十日 四十六
月の名殘 四十八
夜寒 四十八
野分 四十九
紫苑 五十
鶏頭 五十一
芥子蒔 五十二
松露 五十三
新藁 五十四
四十雀 五十五
鮭 五十六
新酒 五十七
後の雛 四十七
寶の市 四十八
朝寒 四十九
秋の暮 五十
花野 五十一
水蕨苅 五十二
初茸 五十二
稲 五十三
歸乙鳥 五十四
五十雀 五十五
太刀魚 五十六
九月盡 五十七

十月之部

十月 五十七
神の留守 五十八
御命講 五十九
秋寒 六十
破芭蕉 六十一
紅葉 六十二
落水 六十四
新蕎麥 六十四
秋深 六十六
初冬 六十六
口切 六十七
火桶 六十八
小六月 五十八
達磨忌 五十八
十夜 五十九
露霜 六十
豆引 六十二
野山錦 六十三
尾越鴨 六十四
新米 六十四
冬近 六十六
酉の市 六十六
北窓塞 六十七
埋火 六十八
神無月 五十八
御取越 五十九
蛭子講 五十九
菊 六十
赤枯 六十一
色不替松 六十三
霜踏鹿 六十四
今年米 六十五
冬隣 六十六
神樂 六十八
冬構 六十七
湯婆 六十八
神送 五十八
翁の日 五十九
露時雨 五十九
苅萱 六十一
鳶紅葉 六十二
柿 六十三
八雀海中成蛤 六十四
抽味噌 六十四
霜月 六十六
鉢敲 六十七
冬籠 六十八
温石 六十九
神の旅 五十八
芭蕉忌 五十九
露寒 六十
我毋香 六十一
草紅葉 六十二
栗 六十四
新綿 六十五
行秋 六十五
爐開 六十七
火鉢 六十八
巨燵 六十九

十月之部

炭 六十九
足袋 七十一
小春 七十一
落葉 七十五
山茶花 七十七
散紅葉 七十八
枯尾花 七十九
冬野 八十
鶺鴒 八十一
鴛鴦 八十四
木兎 八十四
河豚 八十五
炭竈 七十
炭團 七十
紙衣 七十一
初時雨 七十二
木葉 七十五
茶の花 七十七
枯野 七十八
枯芝 七十九
麥蒔 八十
水鳥 八十一
冬の鹿 八十四
網代守 八十四
華臍魚 八十五
摺 七十
布子 七十一
時雨 七十二
歸花 七十六
枇杷花 七十七
冬木立 七十八
枯荻 七十九
大根引 八十
千鳥 八十二
鷹 八十四
柴漬 八十五
生海鼠 八十六
頭巾 七十
蒲團 七十一
凩 七十三
冬木櫻 七十六
八手の花 七十七
水仙 七十八
枯野 七十九
冬の蝿 八十
鴨 八十三
竹筍 八十五
納豆 八十六
炭 七十
食 七十一
寒 七十四
冬牡丹 七十六
柊の花 七十七
石蕗の花 七十八
冬枯 八十
鶯子鳴 八十一
浮寐鳥 八十三
夜興引 八十五
蕎麥湯 八十六

風呂吹 八十六
冬の日 八十七
浅漬 八十六
冬の月 八十七
鈎干菜 八十六
冬の雨 八十七
眠山 八十六
冬の山 八十八
水洒 八十七
冬々 八十八

十二月之部

冬至 八十九
師走 八十八
初霜 八十九
事始 八十八
霜 八十九
臘八 八十八
初雪 九十
御佛名 八十九
雪 九十
雪佛 九十
雪達磨 九十
雪車 九十
橇 九十三
初霰 九十二
霰 九十二
霙 九十二
初氷 九十二
氷 九十二
氷柱 九十三
冴 九十三
凍 九十三
冬の梅 九十四
冬至梅 九十四
冬椿 九十四
暖鳥 九十四
寒苦鳥 九十四
鯨突 九十四
藥喰 九十四
鶏卵酒 九十四
乾雛 九十五
煤 九十五
節季候 九十五
年の市 九十五
年木 九十六
年の暮 九十六
年忘 九十六
餅搗 九十七
餅延 九十七
衣配 九十七
年の尾 九十七
年惜 九十七
雑喉寝 九十八
大三十日 九十八
除夜 九十八

凡例

抑此書を大略唐土にて経出せり
集物を二月より四月まで春と
し夏の事を夏と
し秋の事を秋と
し冬の事を冬と
し一月を孟春と
し二月を仲春と
し三月を季春と
し四季を分ち又春を慶新ら
しきを採るとあり此唐三月を
暮春と云ふ
暮神祭の新しきを四唐に倣ひ其他の名獣
木々の季節に随ひ新の部類を定め集也
されハ用ゆるも用ひざるも人皆好むに変ずるハ
故に善悪を変ずるもまた

現存名家俳諧大陽六百題

栗菴宇山 編
一事菴史栞 校

一月之部

年立

東雲はうすくしらみそめ八立春

人の世や梅を見ぬ日も立春

何よりも人をもてなす春

梅も見ぬ中も立日

ちらちらやちらつき雪き夕春

立春はうきりや雪の樊山

四季より立春人家乱

海山やちらくちらつきはじめる

賛月

新年　たてつらねしめかざりやあたらしき年の浦

新年の頃景のさまやうつくしき　竹氏

新年の景色あり雪もまつ春の　サト巴笠

改年　あらたまるしるしや岩井あらまつ　ソコ水院

歳旦　梅咲てうぐいすなきぬ　イハシロ菜支

初年　初しのさきたてあるめ松竹風　ミカハ半仙

歳旦　まつしやはよきあらたまを受ける　康郷

新玉　新たに筆とるとしはあしたあり　伊兄

初しらたまはりやの春の　京巴

新玉の年山の郭　上毛乙顯

年花　はつたはさきはつはつとしはたる　竹舍

はつ山さきはつはつとしはたる　蘭保

人は世の人は初年はつはつとしはたる　カヒ姓池

旬のはつ春の新年はつはつとしはたる　下サ素雄

あらはしてはやはつはつとしはたる　ヌスリ秀石

はつ春はつはつとしはたる　ホウキ白氣

伊勢はつ花の梅はつはつとしはたる　ヌスリ杜紫

はつはつはつはつはつはつはつはつ表　竹舍

新年の世はつはつはつはつはつはつ　シチノ風儀

夢はつはつはつはつはつはつはつ　ヲヲミ琴腿

降積はつはつはつはつはつはつはつ　エチコ翠帯

雪はつはつはつはつはつはつはつの山　竹氏

去年　はつはつ

今年

陸奥の多賀城もきのふ今日
林の村社所々さくら稀なり
郭りまた梅の花さへ今を盛
さかりなり社山京都

一月

一月も休んでは行の一日
一月や雪を踏社　多賀
一月も殊さら雪の一日
一月や仕事のやうな神無
一月や雪ふり粧ひて
ひろう郭子も一自の
一月やまれくしかも
一月や雪ふりかくして

宮城（リヤウ）　宰
義自
宮山
東山（ウコ）
嵯峨
義山
東明
松嶋（シナノ）
丁（ミチハ）
義川（イハシロ）
松壺（イハキ）
旭舟（ユキコ）

一日

一りやちきれ雲さへ
形ふるひ雪ふる睦月
雪の中ぬけ出ぬ
餅もうれ行きし睦月の日数
立ちそろひ郭きて睦月の
一りは明り社ふりや
一りは人を乗せ
一日の雪さや
一りやおそろしく
雪形も一日めき
一りや大雪ふる
一りや郭の中へ社

上サ　義
仁
銀（ウコ）
吾（カヒ）七
竹良
明風
月（ウコ）
静
梅（シナノ　寒左妻）
女
薄（フンコ）
六
下サ　義
東明
仁

一月を祈りて雪の一
一日の春のやうに
清水もあたたかく人々日ぬ
のもとにあつまりつゝ
えりあきの代の光りやわらめ
磯山はくもり清めて
天ゆくものこゝろ初日れ
新たなる歌の引出もまつ所
胴衣の裏者たる初日の旅
光り深し二の日や初日は出
天のもりはくこゝろ新たき初日
月と家は作りの峰くまつの出

日の始　丹波
初日　星雨
　　玉淵
　　一角
　　子之
　　出川
　　窓左
　　浪見
　　子里
　　蔓
　　佳芳

初明　上野雲
　　乙鄙
　　宇山
　　寸柏
　　拙斎
　　竹舎
　　吐風
　　菅如
　　巴邑
　　芳洲
　　魯堂
　　寺考

初空

暁はくもり雪中向まつり新
初日の光り不老を小屋にまつき
俗世にも出たるしるし初日れ
初明りの光り一條門は雪
時やうしまりや初明り
月の清き戸もゆさぶる初明り
初明り大里もしる先
たゝ雪尽るもゆきやの光り
初空や不老し語りくはたく人
千鳥時はより明るくまつ
初空のうへに明るくまつ
初空のうへに明るく磯新れ
初空にまつはよきまつい井

初霞

初東風

初鶏

初鶏

初鶏の聞を尚ひとうしかな　布白（ツコ）

初鶏ときくやあの方は　カヒ　白日

初鶏やあらけなきこの朱囲　朱囲

初鶏や京まで聞て　石迄（イツまで）

初鶏やあの方の初のこゑ　大坂

初鶏や世の中の変　又り

初鶏や晴の日の雨　雨垂

初鶏の鳴てゆくの初烏　烏

初鶏やあの方の初鶏　乙鵬

初鶏や向こ鶏の　雀（アハ）

曉南　竹笑　浪之　弘美　ヲ（ハ）ヒ　忍山（イシヤマ）　琴堂（カヒ）　宇山　吹岳（フモン）　卜子　對山（キヤウ）　洋々（キヤウ）

御降

初暦

若水

[illegible]　仰舍
[illegible]　宇山
[illegible]　[illegible]
[illegible]　富水

掃初
[illegible]　寥左
[illegible]　一理（ヤシ）
[illegible]　二喜

初湯
[illegible]　喜雄
[illegible]　富水

弾初
[illegible]　梅柳（アヤミ）
[illegible]　有情

寶船
[illegible]　寥左
[illegible]　遥宇（ミカハ）

初夢
[illegible]　巒岳
[illegible]　少雲（スハリ）
[illegible]　赤山
[illegible]　二葉（ハコ）
[illegible]　松成

藏開
[illegible]　琴夕（モヒ五）
[illegible]　寥左
[illegible]　武人（ムサシ）
[illegible]　投山

帳初
[illegible]　粘知
[illegible]　霧食（シナノ）

初荷
[illegible]　二休（ヒタル）

演所を毎年も送る初音哉　卜早
うぐいすの下戸まぶの初音哉　其蔓
都て作る門も都て初音哉　宇山
賣初　売初や宗ふ孤狐を祝ふ　乃秀
売ためや亦初恋想ふ　大吉
売ためや亦初恋想ふ　乙瓢
筆始　硯を敷て筆を初めと筆を初め　月麦
毫の祝ふも初ふ筆始　吟風
長過る祝ふ筆を筆を　派兄
唐を清ふ所作ら筆は先　狐良
去て陽春も子代のなめり　謡初　赤水
猫を手を開ふも墨やふふ初　上先良序

七

三ヶ日　四海波初ふる世代そうふい初　大吉
たふ仏ふ平ふの加ふ仕三ヶ日　麦仙
三ヶ日清ふや　庭の冬ふふ　を江可然
初ふふ清ふふふふ三ヶ日　冬考
松の内　ある用ふせぬふふ松の内　田赤稲雲
住ふ松ふ都ふふ珍ふふ松の内　イハ言青山
ふや一ふり遊ひ波ふふ松の内　サヲミ等貢
世の春の月ふふ松の内　素的
を造作の事ふふ松の内　エヲコ旭原
地形ふふ二月ふふ松の内　イハ言孤山
強の月ふふ愛ふふ松の内　ウニ仙光
遊ふふ春ふ外ふ中ふ松ふ　桜山

恵方

子孫のうち於家中杉はうち　下サ一　如
やうに吹抜も出入くらく直方定　クラマ　荷葉
祝を作り枝も杉せて直方なれ　法中　佐和女
葉をたるを元方の間をうる　仁望
四つうちの方の事定　月和
杉をかれや松も色をうと元方うち　スルカ　芽柳
人はうを生きゆくを元方の卯　宇山
子福をはきくるや着衣始　佐寿
赤い袖を振せきぬ着衣始　乙瓢
たをるを書る名刺や着衣始め　ホサシ　一時
蓬莱を引うり初めや風は色　恋平
蓬莱の四つの足うり方の祝　芳洲

蓬莱

蓬莱に新もきそうり残部板　乙瓢
蓬莱や梅えをはまる祝うの　フセン　辨長
蓬莱の引きをせをせを　カヒ　桃下
蓬莱を南方のをうのをうり　ハカタテ　一の保
蓬莱をうをうをうきや金屏風　旭存
蓬莱を治る國のをうの卯　寒左
蓬莱を形うむるをうをしめ　吟風
蓬莱ハ不老かき世の志をうり　ホサシ　羽山
柿ひうを形をそ喰積　雄
喰積をうをうをうをうを手始状　イハヨロ　稲波
又をうをう笑ひをうれをうめ　大切　徐来
手初や獨の仕いも破ぬうち　乙瓢

年禮

御慶　　挂花　竹舎　ナ高

辛改　　壽木　祖山　宇山　行秀

福藁　　弘美　書院

福沸　　星雨

屠蘇　　寥左　初ワウシ　ウコ二　松花　自静　上サ深和　守山　手梅女　竹舎　スルカ酌堂　仁里　琴題

齒固

十分の高砂もうし　所ワウシ

庚薗の枝ちかれかし　ウコ二　松花

庚薗の秀や筒の松の色又生る　自静

所めうれて成うし　深和

変ちさて言ちさ忘れん　庚薗接姫

庚薗ち世の香ちかをかをるものしまめ　守山

少ちの春ちあるちかちる　手梅女

朝てうちめれて生ちやうの枝　竹舎

雪ちの高砂ちうちや　庚薗の新　スルカ酌堂

当うちめや　仁里

当うちめや　榊ち　捧ち　梅の高砂　琴題

当固ち命の花の白ひうれ　琴題

雑烹　出うとめと松ふて　海老雑煮　稲麦

雑煮　第一や　遅くも　新年　青豆

色も又　香ふ　新煮　掖　石芝（ミカハ）

かうろきこのよ　新煮の　花松　血　汲古

寝積　寝擂　稲穂　ゆきて　稲穂　ゆきて　新煮　正月　籬山（主人）

稲穂　ゆきて　稲穂や　ゆうて　海一　聖りけて　庫　水　直水

つま　ゆ　山　ゆく　雪　水　竹良

稲穂や　庫　ゆう　高　ゆう　琴　鯛

森　第　雪　ゆき　傳子　れ　正月　魚　公

森　第　ゆ　ゆ　夕　心　家　自　イ金口　蓮　仙

十

門松　松飾　飾竹

寝左　稲穂　門松　門松　門松

注連飾　時代風なれども飾竹　寄左
出雲又國の菓子注連なりき　上サ　春鳩
注連なりゆゑ一種二種就　仁里
むしろ戸は稲穂なる稲注連　又ハリ　弘屋
所々のうるゝ一粒や注連なり　文梨
輪飾　編なりやうるゝ後雛　古柱　春湖
世よ法師なる旅うるゝ子の結　前孝
飾海老　飾よ法師なる旅　人心　琴鵬
旅うるゝを主て御ゝや牛の角　仁里
旅の色をうるゝや飾海老　手ノ　村山
飾藁　仕舞ゝ式なかるゝ飾海老　程山
外州の書きうるゝや飾藁　角て

太箸　子苏のうるゝや一束うるゝり藁　宇山
左ゝや左ゝも加賀と先ゝ　菁栽
ゝゝや杉ゝうるゝ結ゝ　杜浪
ふゝゝ紙日ゝ変ゝ子杉育ゝ　仙光
左ゝゝゝいゝゝ置ゝ　下サ　逢母
ゝゝゝゝ枝の付ゝを探て形　カヒ　玉簾
左ゝゝゝ昭ゝ立ゝゝゝ　寄左
庭竈　言ゝ家の民の梨ゝ　庭うゝと　号笠
一隆ゝ雪も法ゝの庭　竈　月静
ゝゝゝゝ杉ゝ庭竈　寄左
義ゝゝゝふゝ足ゝ庭かゝと　手ノ　寄湖
ゝゝ杉ゝ井ゝ法ゝ庭竈　法光

裏白　裏白や老近き人の日数　少き
裏白の多しや今の法ぞ　うたい
裏白やかつて表　宇都
橙　橙や飾り寄せて　詩竹
橙や七日社場の初詣　二休
水祝　義舞の袋ゆぬ祝　去渡
大きまて寄るやはれ祝　袋鉢
をよるぬ間をしひうれ祝　義山
年寄も来きまるやはれ祝　竹勢
れいそひ近ひふせとかるる　一渡
祝ふれまるれ新しと　寒左
ちと過ぎ市場の機嫌やはれ祝　卜子

年男　人の世の人のうめやはれいそひ　素堂
はれ祝まるて先人ぬれ久　松哉
子男ちしをもまるる　蓬宇
新年の祝もみりる　杜農
人手おき高やはるるの男　樹巨
ぬさよりも寄孫ぬと　乾弱
不似合の袴をちし　子男
物毎ぬるぬ新やはる　妻柿
逢来の時ちれ年　妻渡
萬歳　笑家やるる嘆も付　逢れ
萬家や新る海　はひ
萬家やれ祝ぬる　夕

萬葉の哀もとゝ[illegible]の部

千歳も袖ふる山の雫にきれ　クニ　高峰　ハコネ　の深

萬葉のゆゝや姓にも志ゝ[illegible]き　若老

萬葉やゝ[illegible]も[illegible]ゝき　旭洞

猿曳

猿ふ猿の子ゆゝ[illegible]かゝ[illegible]の部　吟風

猿曳や折ゝ生ひ[illegible]る　歌きひ　一洞

猿曳の一ゆゝ[illegible]つ　袴　の部　イハミロ　賀山

傀儡師

宿の子も[illegible]ゝ[illegible]ゝ　傀儡師　ミカハ　竹仙

[illegible]造化の面の変あり　傀儡師　ヨコハマ　清峰

問扇子も上ゝ[illegible]ゝ　傀儡師　サカミ　柳暉

傀儡師　[illegible]ゝ[illegible]ゝ　フシコ　の風

懸想文

[illegible]の[illegible]人社[illegible]ゝ　懸想文　深坪

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　懸想文　ウコ　柳下

女祝の[illegible]ゝ[illegible]ゝ　懸想文　梅女

小殿原

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　小殿原　吟風

小殿原[illegible]ゝ[illegible]ゝ　安房　春為

数の子

数の子や愛[illegible]ゝ　小殿原　深坪

数の子や子代ゝ[illegible]ゝ　謝洞

数[illegible]の数や月日も新ゝき　ミカハ　柳一

鏡餅

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　鏡餅　イハミロ　十綱

家毎ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　鏡餅　遂宇

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　鏡餅　カヒ　左岳

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　鏡餅　小窓

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　鏡餅　吟風

蕎麥切き蕎麥や銭餅　少雲
ちりぬき赤めかるやや銭餅　カと　竹呂
九月三日前字　稲夏
手隠も竹の一ふしやや嫁ヶ君　きロ　木潤
濃くまれ世くまるよくたる　更　泥光
實紅間も彩も天ぬやや嫁ヶ人　キシ　楓雲
拵くめ彩き立ちて嫁ヶ君　竹良
蓼れも秋も赤ぬ嫁ヶ君　上サ　松雄
くれも又まれて嫁ヶ君　赤明
神棚く秋まりまりの嫁ヶ君　蓮宇
規式なく名まる年福寿子　ミカバ　係照
ぬくたまるくこの福寿子　きロ　祢水

嫁ヶ君

福寿艸

約ちく伐遠ちく福寿子　ホウキ　箒樹
陸ちく紅ちくれ白いや福寿子　若志
九十度も伐ちく福寿子　水樣
樹ちくきちく紅ちくや水樣　特知
國栖人や苔も上ちくの苔ちく　ト早
九月ちく棚引雲や國栖の笛　永樣
ちくいつ紅むの一を修ち国栖の奏　富水
懸鯛　蛭鯛や紅ちく出ちく紅白い合　ト早
ちく鯛ちく天ゆる紅ちくや光ちくや　スルカ　裏寿
腹赤魚　萬代も紅赤ぬ贊め多めく乳　ニヤノ公　嫁
長濱や約ちく紅赤も君ち為　黄子
螺有　千紅入くぬ変ち移ぬやち有　モリ丘　富水
馬城

水樣

國栖奏

[illegible]

[illegible]山 [illegible]

旅人の不審 [illegible]

番帽

[illegible]

[illegible]

網曳

[illegible]

[illegible]

羽子

[illegible]

[illegible]

羽子板や男[illegible]

[illegible]

手鞠

[illegible]

人日

[illegible]

[illegible]

七種

[illegible]

七種の郷[illegible]

七種や外[illegible]

七種や足[illegible]

法士の戸や七種[illegible]

衣洒女 カヒ

早山 イソロ

松鳩

揚女

[illegible]

一[illegible]

仁[illegible]

千菓 ミナノ

十[illegible]

蘿城 ミナノ

一[illegible] カヒ

[illegible]

白雲

[illegible]

きれ

揚柔

知耕 ウコ

予雲

[illegible]

閑[illegible]

大洋 リクヨウ

[illegible]江

大坂 波少

[illegible]水 サカミ

七種や冬きも春の手ぶい菜　竹舎
粥柱　土塊の名も呼ぶ名や粥柱　卜早
粥杖　粥杖や人はきらんのうらやけき　梅女
若菜粥　粥杖うちてうれしき妻　琴嶋
若菜　若の色先ぶいぬ粥　乙香
若菜　摘いそきせぬ先ぶ粥や若菜粥　ミカハ山　曼
若菜　ういなぶ〜みうれ蕾　其峰　ヨコハマ
若菜　所略もおくひのうちや若菜摘　徂京　ヨハリ
若菜　出格子や一ぶ雪ふ初若菜　金風　ミカハ
若菜　生ぶうち粥ぶうちあれ摘　艮悦　安房
若菜　雪ふひふうてい粥ぶ　柳長　上サ

芹薺　ぶく粥ぶうち毎ぶ嘶ぶや初若菜　沙山　モリ五
芹薺　一雲ぶ行ぶうち粥名や芹薺　器表　上サ
芹薺　粥ぶうや雪の中ぶうち摘粥ぶ粥　柳葉　イシロ
芹薺　雨二日ぶ生ぶぶぶ蓴ぶ初　女　ミヤノ
芹薺　佛ぶ粥ぶふ形ぶあ紅粥ぶ　静寿　カヒ
佛の坐　ぶ世ぶも世のいまひぶぶや紅粥　竹舎
佛の坐　老ぶ年ぶ忘れぬ名ぶ仏の坐　本潤
佛の坐　閑ぶ一尺ぶ一尺ぶ仏ぶ佛の坐　上サ　参
佛の坐　空ぶ人ぶ名も問ぶれぶ仏の坐　カヒ　雲
佛の坐　祈ぶぶぶ粥ぶぶ置ぶや佛の坐　フヤン　芳川
子の日　子の日ぶ粥ぶ風ぶ行ぶひぶ子の日　ミカハ　水
子の日　祝祖ぶ坐ぶ子　安房　梅寿

小松曳　蘭澂

孫山うゑ初雲小松の命
枝ぶりを尽さんかぎり小松ゑ　文板　素柏

春めきし陸の姿や小松引　青臧

島へ数ふ砂や小松引ちらす　少雲

小松引くさゝらや風も宮ぶる　梅女

笑たれも引ぬ先もよき小松哉　芳　東川

美人ゑ数譜ふの壁の小松　竹良

相性も夢も数ふよ常陸帯　吟風

結び目を意の要を常陸帯　蹇左

結ぶ目を結ぶみ〻ゑ常陸帯　ミナ　仙文

甚五郎うまれ〻ゑ常陸帯　芳笠

立ゐき男仕稼ふる掛　連水

常陸帯
神事

削懸

左義長

爆竹

養父入

そゝろ〻きふる家も門を削懸　李徊

さ家も松そゝ立て注連を結ぶ口　ミカン　蓋秋

主家も竹松の竹の家の　枝山

家も門松そゝんと松焚ふる　イツ　連石

業屋も笑〻ふ小村のゝんとゝ　上サ　粥童

化粧〻ふ白ふ〻ゝんと外

雪穂ゑ主ふ中ゝんとも蓋紅葉　カド　酒仙

粉餅の掛へ退きし〻んとゝ　琴鵬

大切ふ主ふ英稼ふ爆竹　柏女

義入の伽羅白ふ世ぬ草社部　発茅

義入や同舎婚ひよ稼ふ〻　呉仙

街ふふ義入ふよき天蓋平　吟風

月稼

霰入の形ちめてたる花板　海鼠

穀入の形ちにて社会の京のもの　ミノ南陽

門ちかく骨正月の月松の孔　京の

骨正月　多仕しるし骨正月の馳走　三段子

魚捆や骨正月の早仕舞　弘義

生臭一骨正月の小姐板　宇山

御忌　一月も他事なくて市忌衣　ヨコハマ苞水

牛蒡丁嗄嗄咳しけや品の種　青葉

寒の入　達ちかく市忌の新月　イヘシロ煙眠

立春入寒や市忌　ヤヒ華國

かぶを引く寒法や立入　玉藻

降て初瓶干たり立月和　エチコ佳峰

宵戸山や毎日切て寒の入　ト早

汲ひかく水ちかく市立入　下サ霞冊

元の寒ひ新開や寒の雨　二休

寒月や籠の隙のあ支一言　閑葉

寒月や兵の出ちかく計ゆる窓　下サ遥月

寒月や水のう灰を上ちかく計　柳下

寒月や吹きしかく山ちかく　サカミ其外

寒菊　寒菊やちかく計天や菊のまき　袋蛸

寒菊や拾ひ買ちかくもきちかく　リコ市白

寒菊や籠のいやきハ天ちかし　モリ五一の香

寒梅　寒梅や茅ちかく所ちかく　宇山

寒梅や茅ちかき庭ちかく　帝松

寒梅や醫者の扣ひ[illegible]　弘美

寒椿　こがれむしの[illegible]ぬ寒椿　弘香

藪のうれに咲よ[illegible]も宮の[illegible]　コシロ　成雪

探梅　香よりや梅をも探ハ行[illegible]き　吟風

寒ひとり出やうなる[illegible]ハ梅探る　大坂　孔項

寒敲　寒雀や十才ともなる新[illegible]子　素山

寒新の[illegible]ほ[illegible]き[illegible]　クロ　東洲

寒念佛　都[illegible]き新[illegible]　サカミ　秋水

春待　世[illegible]く[illegible]や[illegible]念佛　雪郷

何[illegible]も春待[illegible]　サト　古水

春を待[illegible]ぬ新栗　千之

分別の栗を春待宵[illegible]れ　魚口

二三輪梅も春待支度[illegible]　サカミ　保山

春待や深雪[illegible]の[illegible]　イヤヨ　有葉

春近　春を[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]　史琴

春を[illegible]ぬ[illegible]や[illegible]月お新　ヨキン　善月

春隣　家[illegible]や春を[illegible]の[illegible]　魚口

黄[illegible]も春を[illegible]春隣　カヒ　定風

二月之部

二月　[illegible]日雨と解やく[illegible]も二月[illegible]　等栽

一月[illegible]の春[illegible]二月の[illegible]　寒左

[illegible]や[illegible]小[illegible]　[illegible]義

新[illegible]あ[illegible]春立日　春湖

春立

琴聞　菜蕪　楊女（シナ）　都雪　半仙　乙飄　酉山（山井シ）　一時　藁翁（イハヲ）　楊女　鶴羽　上野雪峰

餘寒

春寒

浮返

春雪

笛吹く英多　餘寒　東京府　陣　魚口　対几　壮山　卜早　静月　きね　竹舎　浪兄　大阪　安人　ナコヤ　洗渓　モリ丘　蓉雪

淡雪

[illegible]　笑寿
[illegible]　一守
[illegible]　双琴
[illegible]　素丸
[illegible]　梅女
[illegible]　移梅
[illegible]　等哉
[illegible]　逢宇
[illegible]　涼坪
[illegible]　カヒ向俳
[illegible]　唐拙
[illegible]　丸

雪解

淡雪のあたゝき限りや　水仙へ　ゝ　梅女
淡雪や子持の陰の小松原　十湖
淡雪を伴山の楚々たる　永孝
淡雪や遠ゝ見えし鯛の色　無川
雪解て寺のさゝやく山の郭　ロコ淡雪
雪ゝゝゝ風ゝゝゝゝゝゝゝ　一淡
積るほど淡雪や　物の雪　ち聚
伐さる雪解も　風ゝ　法れの郭　寒左
雪ゝゝゝや　風ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　梅女
篁ゝゝ　小雪の　淡ゝゝゝ　寒淡
雪解ゝゝ生ゝゝゝゝゝ　二タ子　山　ナヲシ　的芳
雪解やゝゝゝゝ　川のゝゝ　史梁

浮氷

霞

おちのおき松寺門や冰るらく　交山（ムツシ）

山は影置てさやらく初うの郡　竹舎

春中れてたゝかう池の鶴一ワ　翁凡

春ゝり天社秀久山ゝ紅ゝ山　蕙部（まこも）

消烟ゝ寄ふ柄杓もかきみゝり　杜農

水切ゝ解ゝ暮ゝ暮ゝ初郡　梅一（ミカハ）

春ゝ初ゝ船ゝ竹ゝる春ゝれ　左岳

世社中を冬ゝ春ゝ冬ゝ初郡　計清（上サ）

岩春ゝ付ゝ立ゝ春ゝ春ゝ不郡　峡名（フセン）

春ゝ加ゝ毛ゝ春ゝ春ゝ春ゝ山ゝれ　障就

古れゝ初の穂ゝ初ゝ郡ゝ夕　霞

多川の霞汲辻手梅ゝ郡　義亭（フセン）

柳粥

火を禁ゝ春ゝ春ゝ不ゝ春ゝ春ゝ郡　亀末

年貢ゝ春ゝ岩ゝ焼ゝ山ゝ春ゝれ　笑歌（上毛）

出舟紙人の笠ゝり春ゝ郡　頁筵（きぬ江）

春ゝ中ゝ初ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ　若志

楽連ゝ馬ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ　外（フジコ）

根多紙人形ゝ春ゝ春ゝ春ゝ春ゝ　秀舟（イハシロ）

ゝゝ雨ゝ晴ゝ小口郡ゝ遠　霞　ちせめ（上毛）

瓦山も高ゝ郡ゝ人紙郡ゝけゝ　竹良

手ゝの春ゝ中ゝ持ゝ春ゝ春ゝ郡　松江

明方ゝ海ゝり春ゝ霞　ゝれ　竹舎

おゝゝゝゝゝる峠の郡ゝれ　浪兄

由雀

長閑

長閑さよ明るき山の霞
おさまるや伐る人もなき木の陰
長閑さやさゝめりくと磯の波

宇山

ミカハ 竹仙

陸中 清く

上サ 山月

陽炎

長閑さや竹の陰なる水の色
水の面や蜘蛛の巣の人の影
逃水や阿蘇の原の狂歌

東明

荻窟

暖

阿蘇や土塀の裏の畑のもの
阿蘇や子をたゝかれて雨催し
阿蘇や杖突坂の上長閑
あたゝかな人の住家や蓑を干す
ゆたかなる住かりしの沈のね

一雙

一雙

一雙

向ひあふぎ根を拾る日和かな　井月
ゆくゝゝと鶴の歩みやのどかさ　ハコ冬ア　其雪
日は遅一月入春を待ちき　陸中　芳洲

遅日

春迄き待ちやうかり山の縁　碧腿
佐保姫や小も色めくうぐひす川　イハシロ　内亭
さほひめや寒ふもれき手枕　ウコ　美山
佐保姫やきぬふの雨を色取り　ムサシ　一の仙
佐保姫や不老を祝ふ立ちき　スルカ　成度

山笑

ゆらふ山ゝ笑ふ白根かな　竹良
ゆれまその夢ゝ笑ふ山　玉ゴ　一洲
根ゝ祝ぬらしてを一笑ふ山　根兄
さいはやゝゝ笑ふ山　をゝ蓬伸

東風

彩ゝ東風の吹ゝて日和の続きかな　乙瓢
東風吹や久ふ晴ゝ山の時　イハシロ　掘山
新東風や河童ゝ山ゝ時ゝ　定保
春風

春風ゝ清ふゝ京の御　ミカハ　水柳
明の字も和ゝ春の風　金陽
春風の吹ゝ春の風　茶秋
陸奥ゝ士社帰方ゝ吹ゝ春の風　サト　斧刑
春風や古ゝ春の風　エチゴ　旭原
うのくゝと出ゝ吹ゝ春の風　モリ立　等水
春風や海の果ゝ春の二ゝ　サカミ　清中
風も古社機ゝ春の風　若考
新戸出ゝ春風吹や袖ゝ　ゝ　守誠

吹すさぶ風も袖ふり　文字（カヒ）
うち向ふ人もあるなり　春の風　蝶住（イヤミロ）
柳ぞ　なびかうまさるる　好（カヒ）也
暮れかゝる　社小袖白みや　春の風　ちせめ
春風の吹くと雨　ふりうれ
春風や　遊ひたくせぬ　山と海　寒潮
空と月和をふるや　春風　二休
春風の柳　春の波　波光
春風や　波を　うつへて　都二　杉　下光　義精
雨二日　降ける　春と　杉ふる　は　経　滅度
春雨や　田元の　高の　杉　雲け　魚　以
春雨や　名を　杉　春の山　寒　五

春雨れふる　春の　杉　田の　ふる　竹良
加茂川や　陽の　春の　雨　逢（イヤミロ）　望
引籠と　柳　春の　雨　柳女
たゝき　柳　春の　雨　寒潮
春の　雨　春の　雨　宋（ヒタヲ）　隠
春雨や　月　も　色を　天せ　雲　宇山
釜鳴り　も　春　夜　木地の　炉縁　の　吟風
降り　朱　の　分の　人　春　ね　木地　炉縁　ト早
閑　春　きい　も　る　木地の　炉縁　る　素　鳴
下　蒲　下　蒲を　詩や　春　ね　社　春　絵　鳴　春亭
下　蒲や　杜雨の　春　く　日　社　ふ　安房　鳴　春
下　蒲や　詩　ふ　ふ　春　春　春　梅女

木地炉縁

下蒲

下葉や移る木の葉の暖こより　桃馳
とくとくやまく霜降き小松川　梅年
とくとくやとくとくとくとくとも形る白し　桃水
ひらひらとくとくとくとく

峰に重なる星の木のめの邪　上毛　拙堂
呼ひ人の為て梅なる本の茅ぬ　イハシロ　蕉坊
夏籠て十日も立て梅の花　李湖
妻ハ寄き中よりもの〻て梅の花　蓬宇
梅咲て立いも時のあるなれ　源坪
梅天〻て出もよき時と思ひより　吟風
朝月の的寄〻より梅社うへ　宇仙
なつて今咲一匂ひや紅の梅　文礼
白梅の枝を折れ〻やく〻をり屋　ミカハ　雷夢
梅り香も月も弓なり一度のもち　サト　吉水
明く戸を待ひ一梅のうをり沈　大坂　素律
人を〻の数よ〻て月と梅　上サ　秀浦

新の梅寄ひまも他人屋の出来　翁孔
梅咲や梅の寄〻ろもう〻き　一湖
雪〻社咲〻や梅のうをふ屋　キリ五　湖雪
久〻より咲や梅見梅〻ひ　カヒ　小岱
梅ひ〻と寄〻却ひ〻り枝の花　スルカ　星嶋
徒中一き中社　陸中月と梅　寥左
折〻寄〻寄ひ〻く梅の付〻れ　梅女
寄〻梅や折の〻〻月の影　寥湖
寄寄風〻さ〻〻や一磯の梅　仙光
畑寄や寄〻を自慢〻咲梅　新翁
蘆〻風〻陸沖一見宋の花　二休
梅散て寄人寄の〻寄出　イツ堂　聚

梅柳

蕪ひとつ形き門川や月と梅　カヒ　住園

さそうとも語るとも梅梅柳　上サ　聚山

さくさく歩く吟くくきや暁の梅　鉢子

梅の香の宵の月　梅の色　宇山

中ちくうくを歩をまくや梅柳　スルカ　女

雅ちきも晴月形をを梅柳　鶴楼

形よ隙の形き月とあり丘梅梅　サカキ　兎月

夕よりもの尺をや梅柳　仙光

梅ちひくく月社歩や梅柳　ミナノ　肖我

形くうき風の吹くう梅柳　定梁

形くくの尺歩くを柳　九一め

古い木のたくくくくる柳　蓮寿

柳

梅を尺を成奉せよ　夕柳　エチコ　くら女

誘引を奉る世形る柳　うれ　洋々

柳尺をたくくは作一　下地窓　ミノ　蕪汲

雪ゆ一ちくちく和く柳　柳　ウコ一　笑

雨社月を玉を奉るくくも柳　柳　、畏候

ちくくくいふを一きくり　を梅　杜農

河もこのを形れを清一　枝の梅　イハキ　光許

降を影の清ちを去ちき柳　形　イッ　三友

形くうを吟ちの尺をき柳　柳　下サ　花彼

清を清ちく部の位さを　を梅　サヲ　風像

吟くくを吟を吟をむる柳　柳　サト　二川

形をを御ちを部の柳ち柳　を石

[illegible] 柳 [illegible] 老
[illegible] 山 [illegible] 柳 [illegible] 十 [illegible]
[illegible] 柳 [illegible] 寛 左
[illegible] 柳 [illegible] 竹 良
[illegible] 舟 柳 [illegible] 北山（佳系）
小 [illegible] 柳 [illegible] 涼 坪
[illegible] 柳 [illegible] 宇 山
青柳 [illegible] 柳 [illegible] 味 仙
柳 [illegible] 柳 [illegible] 信（ニカハ） 耳
椿 [illegible] 柳 [illegible] 旭 有
[illegible] 柳 [illegible] 計（スルカ） 夫
[illegible] 柳 [illegible] 佳 芳

[illegible] 柳 [illegible] 山（イハミロ）
数 [illegible] 柳 [illegible] 畔（きわ） 成
[illegible] 柳 [illegible] 泰 嘉
[illegible] 柳 [illegible] 柳（上サ） 長
田打 [illegible] 柳 [illegible] 作 兄
[illegible] 田打 [illegible] 十 花
人数と日数とつもる 田打 [illegible] 寛 左
[illegible] 田 [illegible] 芳（モリ丘） 附
畑打 [illegible] 畑 [illegible] 笑（サト） 山
畑 [illegible] 畑 [illegible] 光 [illegible] 有（下サ） 俳
畑 [illegible] 畑の打 [illegible] 舒（フシコ） 長
打 [illegible] 畑 [illegible] 屋 [illegible] 柳（上サ） 一

畑うちや刀に糸遊をよりかくる　飛樣

山の法きくに山蓼うれ　ミカハ　霜夕

蓼とれて手の尽くるに山蓼汁　ウコ　竹香

磯の雪はかくるも深き山蓼汁　竹良

山蓼

赤くて蓼に出る獨活の白ひれ　フンコ　成雪

獨活

手ちの手足せまきに獨活めし　卜子

小ぶりを深川くる白魚哉　弱香

白魚

うりせや白魚付の酒　深坪

白魚や一細金の新たき　左岳

赤くて魚や翁も赤くて形の稱り　意れ

赤くて魚や眼を赤の寄り哉　竹良

小合しき文のよ白魚に赤れ桂　カヒ　桂圓

白魚や出入たくき川　湊　守れ

たくわきを文の馳走の白魚汁　亜李

赤くて魚や眼ひしの一魚のまわりて　牽仙

清水や初ちく白の桂ひらき　芳益

猫の戀

桂や寒くに形をあり猫の意　蓉哉

意猫の燈りの有よ赤めれ秋　カヒ　寸柏

嘆のくるみも形くに猫の意　大坂　来香女

意猫の川まく鯖る男ひり形　モン　義陽

赤りまくる浦風沖くれ猫　杜愛

出くるくれきく名立猫の妻　コ　狙袁

雨の日も赤くて猫の意　サ　汐江

意猫のまくまくも猫くに　尉九

[illegible] 猫の恋　玉影
いらめしき恋ひやうし　猫の文　袋綴
消ぬる雪を　食ら猫の恋　史楽
初をひわかるもちぬ　猫の恋　宇山
莫々や　梅はの里の雨のうち　大坂　溺れ
莫々の　霞をまねく日和哉　二川
莫々や　雪とまがふ枝まねき　芳洲
莫々や　秋を寄する日の光　フモン　留月
莫々の　古恋ちしてうめうへ　モリ丘　波江
莫々や　竹あれをつたる春雨　上サ　精流
莫々の　雪とつ向ふ新の風　孟春
莫々の　春うらひきまりうき　サカミ　井色

新されの莫々ふる日けさ　たゝ　ちく　刈　凡
莫々や　宿のうの時ふ時　カヒ　素竹
莫々ふ　ふたもれ　竹たゝ　イ言　桑五
うゝ新　春れ　ほ日　カヒ　新玉
面春うゝ　莫々の時日　新　高臥
莫々や　雨の時間を　時ふ　春　異候
莫々の　春ふ　初ふ　春ふ　新　玉孫
莫々や　霞の　行る　里の　虚　理聚
うゝ新　春や　陰ふ　陰ふ　新　春　沼光
うゝひ　日や　飛ふ　出ふ　時ひ　ふ　春　松
日　新ふ　春ふ　春ふ　の　ふ　ふ　百ふ　ふ　仁里
春ふ　ふ　初ふ　ハ　閑　ふ　ふ　百ふ　ふ　上サ　豊泉

鶯

雲雀

雀等も空を仲間を呼ぶ　寧左
年も昨も毎日聞うし百子多　寧湖
坊ひと室外を後望よる子多　枝山
鶯鳴や田水よまたる雲の新　杜農
雨ひく歟日和をひくろ楽の彩　寧左
雲雀望や稲り歩ハ降ふ雲の　カヒ　半拙
雉ちき船の音語や揚雲雀　サト　蕎所
年を夢めて空ひ鳴ひたり　下元　芳川
揚ちて口ひし足ぬ雲雀れ　旭有
吹ぬ角ゆまに揚ひたりうれ　モリ五　新湖
不揉頭ひ不ひ揚雲雀　吟雨
朝ちき子揚ひ鳴ひたり　フンコ　芝章

駒鳥

囀

ちりを山ちや雲の蕎ちて　寧舟
樹雲の木ちり揚ひたりうれ　ミチ　楊女
鳥ハも吟ひ作ちて揚雲雀　イヤシロ　耕石
片雲ちる鳥月和ちり揚雲雀　墓雨
雲雀ヨひひ鳥の蕎の種　蕎水
人ちちへれき雲よ和雲雀　宰山
駒ち鳴やちわひ雲ちも昨の蕎比　イヤシロ　北久也
里の井も引ひ市ち法や稲ち蕎の　ト早
鳴ひや降ひぬ雲ひひ不ぬ後　才拙
鳴ひや鳴ち鳴ち出ぬき人の足　アフミ　郎清
鳴ひや昨ち休ち北ち年の蕎　寧左
鳴ひちきや雲ち行　蕎ち人　上サ　果有

蜆

海苔

二三下さげたる　蜆　苔　苔

梅もどき　望月　親鸞　前素

紋の考　もめん　切貝　寒左

海苔の香　黄白　汐見　森山

色　ちりめん　ねあり　海苔　モリ五　うち

ちりめん　岸　海苔　海苔の香　ムサシ　繁岩

海苔の香　ふ　海苔　赤紙　垣　一時

味　海苔　黄の　カト　松根

海苔の香　海苔　料理　ムサシ　羽山

香　形　海苔　海苔　深　寒左

日　海苔　海苔　ミナ　梅女

代　文　海苔　あり　海苔　寒岡

若和布

海苔　海苔　海苔　

初年中人形たちし里大原を
さう年や作り未わかり庭掃り　（イヘロ）城　秋
はきめを拂ふも拂ふ　九　中　（スリ）唯　雲
切れ月の　祇園と中人　松の影　稲　霞
水湖と続ふ多　九中の雲　杜　農
月ふまれ夕　山城しを年ひら　（ミカハ）山　雙　月　九
月の庭ふさ八ふ多　義の風　（ヒサ）義　文
より切ふ月と去作ふ　九　中　（ミチ）橋　女
風雅ふ多ふ　九の夕間春　酒　生
ふ思年　月れ　月れる　池のふ人　風　兄
風よへまれ　義　雄　（ウコ）風　糸
都ふ雲ふも　月れ　新　雄　（サカミ）山　義

新熊

芝能

芝能ふ松子　風ふや　松の風　義山
芝能年　語む月　月ふ　芝ふう人　末子

涅槃

方ふ　女　年　涅　槃の日　坂古
ふふの時ふ移ふん　の日　和ふ郎
出ふ　ふ多も　時ふ　涅　槃の日　（ミカハ）金　學
仏説ふ　時ふ　涅　槃　像　（カヒ）夕　窓
涅槃　年　世　ふ　涅　槃　像　（ウコ）埼　乗
春ふふ　移の　ふも　移ふん　郎　一　時
世を去ふ　佛　ふれ　走　石
佛ふ　ふ　ふ　ふ　日　寒　左
久方ふ月も　ふ　西り　忌

世を去ふ佛

西行忌

春宵

一沢　吉水　乙瓢　ミカハ清耳　エサ十三雄　カヒ岱年　金岳　良大　袋物　文祭　キロ十湖　ミカハ湖風

春夜

春月

朧月

愛季　森元　卜早　ヨコハマ一志　キロ深歩　ウコ東光　アラミ楳五　宏雅　宇山　カヒ寸柘　左岳　サト邨国

雪もまく　ひのまくれの　ゑや　紙　月　卜早
水引て　移の色あるゝや　紙　月　上サ　梅朝
紙ハしきれ田の　ゆゝや　紙　月　ヨコハマ　雪　杉
指ゝゝ　ゆゝゝ人形　ゆゝゝ自　シナノ　梅女
きれハ　ゝの男よ　ゆゝゝ自　二休
ゝゝ　ゆれ　ゝゝ　ゝゝや　紙　月　リヨウ　小原
ゆゝゝ　ゝゝハ　細ゝゝ人　紙　月　イハシロ　菓山
屋ゝも　和ゝゝ　ゝゝや　紙　自　宇山
紙板や　門て　ゝゝ　お金　鶴　浩兄
紙　板や　ゝゝき　ゝゝも　ゝき　二春
紙　板や　ゝゝ　ゝゝる　陰　町　如子
ゝゝれ　ゝゝ　ゝゝの　ゝ　スバカ　望　鶴

春の空

臘夜

春

春ゝゝ　ゝゝ　ゝゝも　春ゝの　ゝ　東子
子の戸　社　春や　尺ゝゝ　夕　灯　義精
春　形ゝや　点の　山も　人ゝ　冠九
ゆゝゝく　春を　ゝゝむや　灯の　風　ミカハ　春丙
陽ゝゝき　春や　板も　笑　ゝ金　下サ　有隣
ゆゝゝも　遊ひよ　ゝ　春社　用　琴　隠
ゝゝきゝ人ゝ　ゝゝ　春や　山の　形　イハシロ　蕉山
人の　春ゝ　春ゝ　ゝゝ子　嘉　北　朴園
春ゝ　ゝゝ　麺の　笑ゝゝ　宇山

弥生

三月之部

生山ゝも　ゝゝの　出来　弥生　北　上サ　乾　蕉

雛

以春の名残よ重る弥生哉　上サ三雨

水色も春の名残てみる弥生哉　シナ梅女

赤さうな旅しるくきやうひ哉　ウコ一詰

隔れき夢ひやうれり古社雑　所良

古絵やむらしおりの日や京の古寒の移りよき　あれ

雑の日や京の古寒の移りよき　所経

出ぬ生ても蒔こハいえに雑の芝　望翁

絵口も利うく新のふ雑うの　南山

子あるも後りうふ生や雑の猫　ト早

よくそれい新れ雑れ　梅女

うしろもまさ雑れ　宇山

うれしさ旅もうれ子社餅　吟風

草餅

味よ重よ春を九めて子の餅　愛子

子餅のうきりや猫る鉦紙術　大坂義琴

子餅や成寿さやうて宮詣　エチゴ妻女

子餅や重へうて置て乾うし　上サ陸江

新うき拵も麦子の餅　イハミロ歳山

子餅や初綾古めて上りに　苔泰

杯のめうや和の九杉　梅子

出水や古れをひとつの分の寒加　サカイ雄南

出水やぬる袴も部しうに　コ如杉

眼ちうを古うう猿新のうひう　シナ英子

猫新を古ちうとうとうとうに　妙草

初雷の行うや門田の雷陽　芳術

初雷は去りて松の古株に
去る雷や耳ふりたる社頃
我後や去る雷に形を変
初雷や立ち残りし社の
後子等と一日休む社の
午時の降雨も形を社の
治聾酒　治聾や色ちる家の
出代　出代や行く味噌を
出代の時や荷物の大男
出代を行くたぬ夕の
出代の名残り中臺所

巴紹（サト）　布白（ウコ）　伝兄
二休　東湖（ウコ）　丈子
等笠　宗丈（カヒ）　李湖
袋拙　三子吉
拙蒙（イハ三）

彼岸
出代や又ふりかへる
出代や好き通り酒姿
的寺も咲き木桜の彼岸
を中ふる物陰に約彼岸
山ふる松原に咲く彼岸
ゆつくり松の咲く松の
松の花　松の花へて松の
浦風に吹きちる松の
釣好の岡に咲く松の
咲くつくつくも天せん松の
繋ぎ一つ咲き松の
立て形を立てを引く松の

有麻（ホ家）　字山　逢宇
逢山　坂谷（サト）　来民
耕雲（コセン）　深水（ヒヤ）　信人（ホ家）
梅毒（イハ三）　夏口（カヒ）
著明

焼野　いたづらに社は史よりハあれど焼野
吹風も消れぬる時は焼野
焼てうつる野辺の初草
太年　一羽　子菓

五加木　掘足しぬ枸杞も掘つふ五加木
物見へて青きを吸ふ五加木
食べ度も吸て社へよ五加木飯
松茸　竹舎　東洲

種卸　日社新もふふ種卸
ふる雨ふ水や種おろし
ふる雨ふ水や種卸
風種　下早　寒左　墨雨

苗伐　苗伐や卿ふ卿ふ卿ふ
苗伐や卿ふ卿ふ卿ふ
苗伐や卿ふ卿ふ卿ふ　おか俊　一重　山

菊苗　菊苗や分て一度は植も せた　清江
菊苗や老の素顔も苗の苗　下サ　孫
杉苗も伸ふ苗の苗　三ツ　梅女

席杖　古郷の席杖ふき　夕の那　永機
席杖や山吹の雨を前ふる　苔笠
席杖や郭公よふる地杖ふる　布白

野蒜　掘ふ蒜の地蒜や仲間ふる　サト　茶所
ひ野ふふ蒜地蒜　苔笠

摘草　子掘や志ふふ人よ摘ふ　青山
掘ふの望ふや苔の沼ふ　桃仙

枸杞　枸杞よふふ雨ふ山の陸　弁之　甫長

狗脊

狗脊や日南きつねの山の形　東子

自省（イスミ）

狗脊や色ぬけて一寸伸びし　梶仙

紅梅

仇めきや紅梅ぬけし朱梅の中　才栽

紅梅やさいつ一つの赤めき色　涼浮

紅梅を赤くさくやや文庫古　杜農

紅梅や葉を加へて城の内　梅寿（ばいじゅ）

新清一首紅梅と夕月松　素石

紅梅や赤つのりまる梅の白山　是心

接木

やとり木を仮と法ふる社接種外　菊村（きくそん）

赤く新や梅木及を真を新なれ　三ノ（みつの）庵庭

新もよく異ひ切り接種素　閑象

白梅（サカミ）

接ノ（コ）梅（ハイ）

梅の支度り那

尺人の赤き羽織新を接木北

先られ〻新を接種の一束　梅女（ミチ）

紫り形ぬ南ふる接種の那　宇山

吹ふ法ふ法ふ法

初花

初櫻

伸るとて皆葉と絡れる初櫻　シナノ　梅女
もつれりと山を前出し一ツ枝　李々
朱の如き畑の畦　雲吉　蒙翠
初花やぬらしたる木も人も枝　小栽
初花や都の言葉恥へよき　フンコ　西吉
初花や人の古郷の垣きつけ　紅舎
ちらくと初花咲るに小雨かな　シナノ　樣蒙
初花や森中きれる社頭ゝ　梅女
初花や田植者も居ぬ一ツ家　宇山
きれ本も居ぬと居ぬと初櫻　永機
春去ねのちらくと初櫻　静安
ちふ少ちらふ来ぬ尺ちや初櫻　雷夕

春と月を孤りと初櫻
その いちちと人形　ちら櫻　一時
ちちちる梅の木　初櫻　杜叢
ちちちちちちと初櫻　ヨハリ　素仙
尺と咲一ツ少ちと　ちら櫻　フンコ　梅里
ちいちちちちちも初櫻　二休
ちちちちの庄ちちや初櫻　保兄
又付ちる花りの名と初櫻　冬老
初ちちり種き初ちや初櫻　寒眠
出出りも初ちちれ　ちら櫻　ちち　甘露
やちちの日和ちちちちちち　ちき　雄
ちちれちと来ちちちち初櫻　宇山

糸櫻　桃より垂れ櫻ゆり糸さくら
谷間もよきかりて糸桃　卜早
芽花　裾ゆ出しく来ぬる茅花　森雄
うさぎきもちゝ　ふゆる茅花　江川
桃の舞よ月の月ゆる茅花　宴左
絶桃ゆ元ゆを見しる茅花　桃女
雨降しに退く桃　茅所
巻ゆく桃　ナトヌ之
世桃の巻　巻ひ　繁
桃達しに巻　物や桃の花　カヒ名臼
花咲く春の巻　桃の巻　ウコ作れ
春ゆ春ハ巻　桃の花　留月

竹の秋

三月菜

菜の花

ゆ春桃を望ゆ　桃の花　カヒ芹　丈
田を蒔く小言　赤や桃の花　上サ一　法
つゝ京を色く　桃のさゝゆ卯　ハタラ時　宮
いち先く咲の　花や桃の花　不杉
竹の秋ゆ　秋ゆ　芳洲
竹よ桜も　竹の秋　宴左
ゆ春ゆ　三月菜　来れ
雨降く風の　三月や　苦三　撃友
三月や花の　菜大　桃　宴左
小原工漫　三月菜　李紹
菜の花や　俳句の　杉変
菜の花く　ゆ雛の　仙史

茅の色や戸の透まれて寒白し　孔頂

蒹の色や手をうきて丘の京　貞柳（ヒセン）

乙鳥

乙鳥や庭きれ掃もすまし顔　御水

雉の色ふるくさりや蒹の乙鳥　乙瓢

郭公の蒹を分る乙鳥哉　芦豪

ぬりかくす蒹を添めて蓋りれ　山芳

郭公社寒をまろこふ蓋り郭　派兄

乙鳥やうつひ時より蒹の奉人　宇山

雉子

雉子鳴や夕段ひ山ふる　大坂喜律

峯の雲ふるも雉子の市鳴れ　対几

時鳥の里ふ〳〵き雉子の鳴う郭　住柳

羽ばたきれ重ねて天の雉子　ミノ 桂石

雉子の声や時　里中 蒹光

雉子の残るや雉子社寒の中　手ノ 梅女

雉子の声ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ雉子の寒

寒〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ雉子の時

帰雁

浦の松を雁を一雁の立ふ　三ノ 陳雲

郭公や雁の雁の雁　ウコ 尾光

横雲の雁の雁の雁　サカミ 梅古

夕立の雁の雁の雁　上モ 乙美

雁別

遠近を出くりを雁の立ふ雁　ちせ女

郭公の雁の別を雁　スカ川 壮山

春雁

鉄ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ春の雁　西京 英只

春の雁　高臥

獺とゝめ刺池にもとゝまれる春の石　苔寿

春鳥　鳴止く雪に山もとゝまれる春の鳥　サカミ　蓼蟻

鳴かぬ水にもとゝまれる春の鳥　上サ　琴彦

雀子　子を生れて巣ばなれする殿雀　等栽

雀子も野鶯うれしそうなる　上モ　涼衆

口笛にまぎれ新の鶯哉　ヒヤ　尼丸

孕雀　きゝめ子や今こそ羽をなれ五丁町　ミヨハマ　梅友

雀の子　雀の子　松成

一ツ足ぬ雀の子作仕て雀の子　ヲヲミ　一石

初子むきを作りて乗りり寝の子　カヒ　三都雄

雀の子　雀の子　大坂　陸路

初白や雀の羽伯　うを山

松毫鳥　又ぬ雀ちゝ大ゝ雀やれもり

ゝ雀ゝ雨の降ゝ　れむし生

鳥の巣　山の巣海の巣川く巣る鳥

巣の巣のよゝも新ゝ工ゝり　素山

苗代ゝ作る立木の巣多れ　魚兮

巣の多れ鳥ゝ　ホリ　本退

多の巣ゝ巣ゝ藪巣　シコ　銀河

朝鷹　鷹ゝ鷹ゝ　ト早

鷹ゝ鷹ゝ一隻鳴ゝ日れ白河　桂女

初蛙　ゝ言ゝ雨形り鳴ゝ初ゝ　宇山

初川岡ゝ沙法の門ゝ法ゝ　蓬宇

ゝゝゝ初の宮体　初蛙　袋掛

蛙

笑蛙（サヤミ）　孤山（イヒヨロ）　一尾

蛙　麦生（カヒ）　芳洲

蛙　旭石

菜虫（イヒヨロ）　別れ　一の涙

蛙　寒洲　居士

蜂の巣

蜂　琴象（カヒ）　宮山

蜂　湖風（ミカハ）　きれ

蜂の巣　鞆（カヒ）　義山

蜂　子之

蜂　史葉

初蝶　雪　杜農

蝶　永機

を作る中を乗りふれてふれ　サト丈
雨のてふぬきたるも形きの羽の外
蕎麦の中出てそれ佛まる右墜外　カコ功禾
時子姉を蕎麦の所をもの家の墜　羽山
家をもたるたるぬ風行をもふ杉墜　東洲
杨墜〳〵後を蕎て蕎ふふ墜外　財れ
墜の羽〳〵不見の主〳〵れ　子之
莱の家姉を姉佛の家ふふ墜　弁シ梅寿
逆をせて置〳〵きれや庭の墜　主ヒ蕎中
墜ふたり〳〵ふ風を入れたり　カヒ一南
風を樹をを羽形〳〵墜の浮世之　星雨
置るや風を墜よりうへをふく　風兄

蛇穴出

揚土を走〳〵毛墜の羽新れ　ヒチ洁山
を傳〳〵ぬ下子〳〵ぬ墜系ぬ　等載
行ふ姉外を〳〵り　姫の宮を出る　吹風
出〳〵ふを〳〵れも せれ宮の蛇　ナカト杨寂
七仏夢ふを出〳〵ふ宮の蛇　寂左
宮を出る館〳〵蕎る蘆〳〵郎　シナノ屯
館宮を出〳〵り屯　蕎き　袖たを　ナカミ保山
蕎〳〵ふ〳〵修天象之遠之田螺　寺載
月代のさ〳〵や門田〳〵修田〳〵　カヒ仙結
年所へ出て言れ走〳〵田〳〵れ　スルカ義玉
日を〳〵けて也の中遠之田〳〵れ　ケヤ巨れ
さ〳〵ふを丘姉や形り修田螺　三千寸

山うつおさーて善善る田課う邦　千ノ　拍女　寄左
義ふふふ　田課　吟ふり子かうん　史栞
吟田ふ　ふふふ　ふふふ　ふふふ邦

馬刀　指ふせふ馬刀のふふふ伯ふれ　サト　素民
名ふ知りて　る刀ふ　考ふれ所れ　山餅子
ふふふ馬刀ふふ　葉屋の機逆ふ　史栞

落角　指ふふもんふふれ　角　布内
ちふふまて　隆ふて　義ふふ義の角　寄左

角義て　ふふふも所ふれ義の色　宇山

鮒鱠　部合ふき矣指伯ふや鮒　鱠　吟伯
鮒鱠ふ所ふ　急用れ内係れ　卜早
吟伯

壬生踊　壬生踊義盗人ふ　ふふふ

梅若祭　茅れ義の自ふ中ふふ壬生祭　千之
順の峰　ふふふ不て旅人は内や壬生祭　西京　稲荷
ふふふふふふふの奥や壬生祭　レキノ　拍女
敷ふ義ふふ　拍拍　塚ふ拍義栞ふ邦　吟伯
寄左

ふふふ　ふふふ　ふふふふ義ふ邦　スルカ　秋園
峰入やけふやふふふ　吟の峰　フセン　吟吾
峰入やふふれ義　諸玉　岩伯　寄左

御身拭　ふふふ義ふ　市身拭　生寿
世ふ義て　さふふふ　市身拭　卜早
ふふれふふふ　塚ふ　市身拭　義亭
義ふふふ　義ふ　市身拭　カヒ　金岳

清きを古らは堀て市多越　寒左
市多越ふたゝやゝ　きさらぎ　手柄女
ゝ春ゝ　春の山　寒泉
春の水　春の山　春泉
春は川　春の山　春泉
山川や　春の山　春泉
清くも　春の山　春泉
春の山　春の山　春泉
春の山　春の山　春泉
春の山

新しき色や四月は清き山　上サ　亀甲

象の角に振しぼる四月哉　素堂

郭公鳴くや四月の雨　素老

郭公なくや四月の雨　如松

夢覚て聞くも四月の雨　龜翁

仏生会　壮山

芝草の葉も花を乗る和月哉　宋太

明星の光り眠る和月哉　コシコ　雅麦

川上社高立て和月哉　イスヒロ　蕉山

庭苔の青き和月哉　ヤラヒ　樵五

青き蓮の池も月和を吹く夏　蓮宇

古社やこの苔の葉に青き夕　ヒヤノ　松陵

卯月

青簾

掛かれば月も青き簾　千之

遠見にあるの山の清水青き哉　宇山

見るもまた八月を待る紹系　素山

牡丹の花に新しき簾　カヒ　夕寂

芝草に新しき簾　安房　田乗

鍋祭

灌佛

灌佛や入るの罪ふるる　色水

灌佛に抱もたれ乗ひ　卜早

灌佛の流に清き乗ひ　仙久

灌佛や慶参の甘き塔の先　雪章

花御堂

除て来て人に洗ふ玉吐重　所舎

仏まで浮世を花の御堂哉　寝左

なるむ色のやうも尽て玉吐重　モコ　文机

[illegible]　上サウ　条

[illegible]　北山

[illegible]　袋懸

[illegible]　一寸

[illegible]　武人

[illegible]　エチコ　氣石

[illegible]　フセン　枕肌

[illegible]　ヒバ　氣石

[illegible]　ミカハ　二松

佛の産湯

汐干

[illegible]　汐干偶

[illegible]　宇山

[illegible]　吸古

[illegible]　上ホ　松笠

[illegible]　寒左

[illegible]　エチコ　女

[illegible]　リンセン　椶櫚

[illegible]　芹舎

[illegible]　才栽

[illegible]　北山

[illegible]　寿石

[illegible]　リンセン　甫山

蛤

待花

花

[illegible] 李山
[illegible] 吟風
[illegible] 春雨
[illegible] 人の孫 [illegible] 春雨
[illegible] 鶴村
[illegible] 風呂をしてもやはり [illegible] 乙鶴
[illegible] 雨の [illegible] 阿波川 [illegible] 良
[illegible] 又功者の [illegible] 百浜
[illegible] 春盛
[illegible] 男ひのもやはの山 [illegible] 春國
[illegible] 春の本名 [illegible] 卜早
[illegible] 女 [illegible] 妻 女
[illegible] 梅女

[illegible] 春光
[illegible] 計佳 (上サ)
[illegible] 仙光
[illegible] 文机
[illegible] 一来 (弁レ)
[illegible] 啄川 (サカミ)
[illegible] 芝丈
[illegible] 楪秀 (ヨヒマ)
[illegible] 芹甫 (カヒ)
[illegible] 五[illegible]
[illegible] 百紙 (千五)
[illegible] 原淋 (上毛)

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

下ちる雲うす上ぬの山さくら　十雲
雨上るくまなき時きぬ梅ゝ　西京　英月
星の子社人を尺る出ちゝ　桑末
稚松ぬ山ゝ　イヨ　柳葉
山の名ハ松くも樓ちゝ　イキ　明月
ぬちゝ月ゝ月ゝ夕樓　宇山
夕雨の雲ゝ　学笑
小米雲雨ゝ　寒左

稍花　上サ　望仁
辛夷　下サ　吹翠
辛夷さく雲ゝ別世界　寒左
吹ちゝ辛夷も新しき雲のくゝ　梅女
雲と藥の世を別る辛夷哉
稚ものゝ名ぬ山や辛夷吹

石楠花　竹良
蹴躅　寒左
石楠雲や清水村ゝ雨上る
又下も時清し四の家　吹風
名ゝ雲の雲ゝ　上サ　春嶋
清ゝ水ゝ　熙知
撫る水も清し新緑の雲の色　寒左
新ゝ雨ゝ　梅女
九月ぬ雲去ちゝ清し　浪兄
海棠　フシコ　月素
海棠の月も明ゝ雲　キロ　素雀
海棠の風ぬ雨ゝ月の座
海棠の色を雨出る山雨ゝ　宇山
連翹　連翹や結んゝ言き　蓮舟

茶摘

山吹の色よき里の茶摘哉　布白

茶畑へちいのぶまで茶摘哉　宇山

初鰹茶を人よりも茶摘哉　春湖

京の春茶摘の中へ寺住哉　杜良（イハラ）

宇治の里茶摘の日和哉　惜山（ホタル）

池ばたに茶摘ばかりの日和哉　田乗

藤

藤の花一枝ずつ雨の窓　剣九

茶畑の一節言ふ藤の花　寿山（ウコ）

垣結ひ結ぶ法師や藤の花　緑園（ヤヒ）

ふるかぶる山法師や藤の花　素明

藤さくや寺の日数の限り　九井

山吹や新の古き藤の花　梅女（ヒメ）

藤棚や山伏人の寄りて居　弘道

垣外を垂大河に藤の花　不朽

山吹や宮の形を変て咲　寒左

山吹や垣を切て結ぶ垣根哉　磨拙（カヒ）

山吹や結たく枯れ水の吉　百川（モリ左）

山吹や川あるる橋の新羅　秋峰（きし）

山吹や浮世を変て咲代　梅女

山吹や宮を結ぶ垣の影　未梅（イ公吾）

北嶺哦や所ゝ咲ぬ屋敷　季春

うぶすなを宮の色ゝ咲　民（サト）

[illegible]之花　屋　十花
屋敷や　[illegible]　[illegible]の旅　カビ　菓子
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
山[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]　上サ　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible] 小鈴 [illegible] 春雄
[illegible] 小鈴 [illegible] 春松
[illegible] 喚子鳥 [illegible] 松支
[illegible] 喚子鳥 [illegible] 霧月
[illegible] 喚子鳥 [illegible] 作苦
[illegible] 喚子鳥 [illegible] 一泡
[illegible] 喚子鳥 [illegible] 李郷
[illegible] 喚子鳥 [illegible] 等載
[illegible] 麥鶉 [illegible] 半拙
[illegible] 麥鶉 [illegible] 聖平
[illegible] 麥鶉 [illegible] 聲友
[illegible] 麥鶉 [illegible] 成

[illegible] 雲入鳥 [illegible] 有儀
[illegible] 雲入鳥 [illegible] 麥 [illegible] 宮山
[illegible] 雲入鳥 [illegible] 麥 [illegible] 吟風
[illegible] 雲入鳥 [illegible] 麥 [illegible] 入 [illegible] 正善
[illegible] 雲入鳥 [illegible] 麥 [illegible] 入 [illegible] 貴郎
[illegible] 雲入鳥 [illegible] 麥 [illegible] 入 [illegible] 張先
[illegible] 雲入鳥 [illegible] 麥 [illegible] 入 [illegible] 楊壽
[illegible] 田鼠化鶉 [illegible] 吟風
[illegible] 田鼠化鶉 [illegible] 風儀
[illegible] 蠶 [illegible] 杜農
[illegible] 蠶 [illegible] 露夕
[illegible] 蠶 [illegible] 一高

爐塞　寒左

試茶　李元東

敵鞋　汲古

別霜　李鄉

[illegible]　寒左

[illegible]　梅女

[illegible]　李宋忠

[illegible]　竹義

[illegible]　俗能

[illegible]　市白

[illegible]　寒左

惜春　梅女

[illegible]　耕石

[illegible]　生ヨリ

[illegible]　精知

[illegible]　竹中

[illegible]　俗能

[illegible]　有東

[illegible]　李白

[illegible]　函アラミ

[illegible]　東水

[illegible]　松シナノ

行春

行春の惜まるゝ日を法性寺殿　逸外
行春をうゝへぬ小名仏もれ野宝　ハウシ文雄
うのくと移ゆく春をうらやまし　秋女
ゆく春をおもひ捨てうら新り　吾寺
行春や捨てわすれる山の色　アハ東湖
行春を惜の新よ池の魚　赤水有隣
行春の留守や鶏うれ杜宮　客左
悟徒の都除や春もけうり　宇山

五月之部

五月や嘆の来さうな五月雨　乗翁
夕立や翌日の雨新る五月哉　琴糸

幟

朝雨の時く時ゝ五幟の郎　孔頂
又ゝけうん幟を使ふ俳五郎　杜芝
いさましき都の時ゝや初幟　玉洲
鯉口時ゝ又ゝうゝや大ゝ幟　希杜
雨の日を中へ張ゝて初ゝ幟　稲雄
解せぬ笠や粽の内ゝ　き水
客ゝ来ゝ人も手伝ゝ粽う郎　上サ雪嘯
酒の味へ都中ゝ新ゝ粽うれ　限兄
錦ゝより張ゝを先や無粽　宇山
日ゝきゝて拙ゝ松餅　美山
主新の筆ゝ書ゝ　乗史

[illegible]　柏餅　柳女

[illegible]　仁里

[illegible]　梅宿（ナカト）

菖蒲葺

[illegible]　菖蒲　美仙

[illegible]　仁里

[illegible]　菖蒲　仁里

[illegible]　菖蒲　翠（イウ）

[illegible]　柳（フヤン）　柳

[illegible]　仙（ニナ）　父

神水

[illegible]　菖蒲　月（サカミ）

[illegible]　柳　芳

[illegible]　京　[illegible]（カヒ）　岳

[illegible]　之　引

藥降

[illegible]　菜の日

[illegible]　山　美山

[illegible]　仁里

[illegible]　西の京

競馬

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

大矢數

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

印地打

[illegible]　[illegible]　月野

[illegible]　[illegible]　仁里

更衣

[illegible]　衣　白俳

山子の[illegible]も[illegible]て更衣　新蕊
[illegible]て[illegible]人を[illegible]更衣　晩翠（下サ）
[illegible]山の[illegible]初[illegible]きて[illegible]久　素竹
約束の人を待日や[illegible]も久　千石
[illegible]やうて[illegible]更衣　文祭
[illegible]は[illegible]ぬりや更衣　曙堂（ヲハリ）
[illegible]の[illegible]やや更衣　直水
[illegible]も[illegible]更衣　宇山
綿抜　[illegible]て抜[illegible]　[illegible]
初袷　[illegible]の[illegible]袷　亭左
[illegible]の[illegible]初袷　左岳（カヒ）
竹良

初袷　[illegible]袷　白佛
[illegible]初袷　[illegible]袷　[illegible]
[illegible]の[illegible]　青茅（陸中）
[illegible]初袷　[illegible]
[illegible]袷　宇山
[illegible]袷　[illegible]居（イヨ）
[illegible]袷　[illegible]
袷　[illegible]　忍山（イヒ）
[illegible]　[illegible]　[illegible]（上モ）
[illegible]　[illegible]　[illegible]（上サ）
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]袷　[illegible]　大洋

[illegible]

夏衣　[illegible]

新茶　[illegible]

[illegible]

[illegible]

冷汁　村　義光

きさらぎや都もよりて接く　大坂　義琴

冬冷　憲の先

煮冷やかゝる戸の内を家性殺　張先

鮎

子鮎の馳走よ祝し羽織　半仙

子鮎や清り戸ゆゝて隣り　大坂　東柄

笑ふこといつて鮎釣りに　夏象

さら月よか洗ふやうに　京　柱吉

月も僧のうちの吉し　仙先

茶味さらと味はせて鮎の鮎　吉川

牡丹

簪もて孤を洗ひ毛抜き　一茶

本の蓬ふく風ふきぬや高し　牡飯　新蓬

岐阜鮎やよきかゝる紙帽子　張先

味噌和さ牡丹ぬれて鮎の味　畏侯

男子もほゝき変よ　牡壁　宇山

鮎の蓬ふきぬ牡丹　此風

今の生ゝ木のこと旦ゝ牡丹の郎　乙鶴

塵ぬぐうて牡丹　寸松

生き鯛ふ住ゝ尺ゝ　旭有

掃除せ一度の蓬ぬり　牡丹　素民

入ゝ蓬も手裏と此吉牡丹の郎　卜早

長ゝも人の手を借る牡丹　遊月

[illegible] 牡丹 [illegible] 寄左
[illegible] 牡丹 [illegible] 来的
[illegible] 牡丹 [illegible] 白猪
[illegible] 牡丹 [illegible] 二の涼
[illegible] 牡丹 [illegible] 一時
[illegible] 牡丹 [illegible] 孤長
[illegible] 牡丹 [illegible] 常氣
[illegible] 牡丹 [illegible] 百越
[illegible] 牡丹 [illegible] 稜れ
[illegible] 牡丹 [illegible] 五崔
[illegible] 牡丹 [illegible] 法芝
[illegible] 牡丹 [illegible] 来陽

餘花

葉櫻

[illegible] 牡丹 [illegible] 二来
[illegible] 牡丹 [illegible] 来水
[illegible] 牡丹 [illegible] 宇山
[illegible] 牡丹 [illegible] 仁里
[illegible] 牡丹 [illegible] 卜早
[illegible] 牡丹 [illegible] 百れ
[illegible] 牡丹 [illegible] 蔵深
[illegible] 牡丹 [illegible] 文百
[illegible] 牡丹 [illegible] 弓俳
[illegible] 牡丹 [illegible] 鈴篇
[illegible] 牡丹 [illegible] 成鈴
[illegible] 牡丹 [illegible] 丹保

櫻の實　若葉

櫻桜の実　若葉の出るまえ　竹舎

楚撥の出実　桜の実　遠水

白楽天の詩　桜の実　深水（ムサシ）

桜の実　星暁（カヒ）

実桜の実　みやこの春より出る生　えし先

春の日の実　二春

はも春も世をぬ実　木陰　水陰（ミヤハ）

其春　春の実　下ザ　陰

桜花の初の春　山外（エサ）

春の人　新の春　春の初の春

滝春の初の春　風蔵

海陸の山の春　仙鶴

春の春の春の実　子之

若楓

陸放の山の春　春の実は　京四

光春の春の実の春の春　風蔵　寒左

春の春の実の春の春　桂園

深き春の春の春の春　張見

滝春の春の春の春　池江

春の春の春の春　宇山

春の春の春の春　角子

春の春の春の春　影（カヒ）

春の春の春の春　影（フヤン）

春の春の春の春　卜子

春の春の春の春　寒左

病葉　南山

わくらゝ葉の赤くなりぬるや草枯れし人　本閣

わくらゝ葉に新のきくゝ夕の秋　寥左

わくらゝ葉に袴の吹きれ出でゝ　宇山

新樹

青葉の赤き枝に新樹　剪凡

降ぬるの葉も新樹の雨　梅女

茂

所々に枝の伸びたる新樹哉　閑茶

義経の樹や　枯の行末の伸びたる　不角

四五株に没る井の義経　清山

木下闇

下剃や　如法経を込む洞の口　吉儀

釈迦の涙入るや木下闇　寥左

夏木立

行しらぬ樹の枝きん坊や木下闇　秋水

駕かりて　おくる小坂や木下蔭　少雲

孝子ぶりて下雲雀や山の根　山路子

塔ぶりの古社ぶりや夏木立　寥左

苔むしもなりしもなれや夏木立　紅雲

蔦はをそしの末立　恨光

塔うくるとうくるや夏木立　保通

苔木立出ぬ人言き機遠の帰　女

卯の花

和の色や雪を埋る卯の花　行舎

月代に埋れ埋れ白し　サト雪所

うれ音や所の河もとゝろ　きく春玉

うれ音や山の祈り和の河　啄洲

桐の花の色や城廓 堀の新緑 函嶺
桐の色や塗杖高々 塔 一寿
桐の色や月枝の ある枝 一の位
桐の色や きりりしく 黄昏 候
桐の花 桐の花 桐の花 宇山
桐の花 桐の花 桐の花 一位
桐の花 桐の花 桐の花 稲波
桐の花 桐の花 桐の花 子之
桐の花 桐の花 桐の花 仁里
桐の花 桐の花 桐の花 寒左
桐の花 桐の花 桐の花 芳洲
桐の花 桐の花 桐の花 旭舟
桐の花 桐の花 桐の花 信兄

橘の花 橘や 橘 橘 橘

竹付子の雫老くるや　名の月　ムサシ　蔦柳

竹のうや　立もさきゆる　育ふり　竹勢

竹付子や　追ぬくく　出る　麻の中　室左

名殘も　さくぬ　年之　蓮子　長　南窓

夕暮や　清水　之　又　出る　杜若　芙蓉

ふくぬく　名殘　起せる　ふや　ふき清　杜若　木南　ユキコ

長ふりも　露の　言さや　杜　若　安房　唐斎

むくるうく　ふく　ふや　ふき清　美山

拾て　来ふ　ふく　蓮子　長　東湖

菖蒲　清　ふく　ふや　かき清　一雄

ぬる　拾ぬ　ぬる　ふや　一　ふ　名月

名殘　ゆる　長　ふく　蓮子　長　明後

杜若　長口　蓮伸

殘の　ぬ　長　杜　若　重湖

潤む　ふ　ふき　蓮子　長　柳女

ふく　ふく　長　根　杜　若

北陸の　ふや　服　ふく　ふ　長　清　ふ

子を　清　ふ　ゆ　ふ　杜　若　伝兄

品ゝ　ふく　京羽二重　ふや　ふき清　二休

長　ふを　生　ゆや　ふ　ぬ　杜　若　二葉

花菖蒲

一様を　荷田の中　や　長　菖蒲　杜農

拾ふく　ふ　ふく　小屋　ふや　長　菖蒲　高升

芥子

芥子　畑や　世ふく　望　ぬき　清　構　フコウ　岸六

白芥子の　一　ふ　拾ふく　ふ　ふく　ゴロン　吸　吾

蓮ふく　ふ　拾　長　蓮　清　ゆ　ふ　杜　若　長　一　義亭

葱

孫子ふる事の傳よりけり　下サ百　藤
々ー吹て風の形きりて　モリ立　芳　れ
胥閣もちらぬ山おもかれ　イハヒ　蓬　望
飛を埃　散て　百形り芳る　烟
捨て芳て　捨人　せ　有り　、　藤　住
々て散々きて　又　芳れ　告　豐
又古まめちて　名れや　れ　平　山
白々れ枝を捨て　形る　葱　丹　れ
八方て吹ちて　も　れ　コハリ　芳　蕪
乙名のよりけて　よ　れ　宝　左
水ちて雪　又て　葱　れ　吹　風
又後て　き　風も　て　れ　安　人
ヒメチ　清　山

蕗

序耳艸

紅の茎より　吹て　序耳子　深坪
多を先　長生ぬ　る序耳子　芭蕉女
序耳子　長　吹て　三　ち
芳生て　も　蕗　下　仁望
蕗の蕗て　白吹　森　蕗　東湖
ちて　蕗て　雨　蕗　う形　蕗柳
名て　て　い　終　れ　美人草　乙鄙
海棠も　散て　れ　後　美人草　蕗　孝
一八　一八やうて　ぬて　四ッ谷　百　仁望
一八やちて　捨て　形　清き　磨拙
一八や土て　て　菓　庭　伯兄
樋の水をうて　玉巻て　作　永　走　水

美人草

玉巻
芭蕉

[illegible]　羽山　寒左

日[illegible]　[illegible]　[illegible]　

星うらなる不二うり先うり庫う雨　末成
そそぐの白樫き寺ちをそそぎきりう　星雨
苔籠や岩清りを注めれ　蓮宇

夏籠

夏籠や石ぐるまをやらせをかふ鶏の蓑　十蓑
夏書

白玉屋活て奉の清む夏書哉　上サ湖童
蛇まくる窓も拡くる夏書れ　青李
茅ぐるる茅を結る夏書れ　卜早
拡まれも行きて夏書哉　下サ一れ　子里
短夜

短夜の志の寝覚もうたて夏　湖れ
そそぐの拡を寝や寝る時拡る時　如柳
短夜の行ちうの夏の徒ちそそ　十花

琴聞
みしの拡も伸ける雪の行り琴の弾る　一湖
短夜や拡も雪のそそまるる　丈夜
短夜のうるまで深き庫の拡　活之
そそぐの拡も拡く鶏拡や新すめ　星雨
明易

魚河岸やはうーう拡を鶏まくき
明易き文ちちを又ちぬそそりれ　俳坊
明易き拡のうるさまや時計窓　杜農
明易き奥や法花拡や法士う新　ナコヤ弘之
明易き拡拡ちく鶏の浦を拡　美山
十分の月うちうう明易き　布雨
明やさき拡の鶏合や鶏鶏の寄　湖童
夏の拡の名ちちうう拡　枕格
明易　湖

夏夜

杜鵑

杜鵑

杜鵑

杜鵑

森羅

俱

笑

の

仙

和

玉

年

笑

清

知

未

曙説　涼風
世話しやせきりのうく　梅女
ゆきもしきのうらや　新吉　竹舎
和田の宗　ひとへしてかくきし　上サ　豊象
おくきしをかたもはも　きロ　梅水
めくらきの百さきれり　留意　寧静
養置たしくらけめくきし　東東
風の松をのくきし　ウコ　子朗
雪降もきくをしく　仁　桂
結ひしく待をうせく　桂象
川上の松を白せく　素功
ゆきをきをきしく　幹雄

老鶯

おくきをしく一声をしく　弘美
結をもをゆきをは　宇山
芽をや人をも　義精
芽をや　花をも出をも　小梅村
芽をや　花をさくもる　竹舎
ゆきをしく芽をの　イ金ロ　彦山
疲をの鳥の声をも　寧左
芽をや　花をもうひを　フクミ　道男
芽をや　花をも　イッモ　峰象
芽をや　花をしく　支柴
芽をや　花をの　宇山
芽をの鳥の　ゆき風
をを　ゆきうひをの　仁里

附子蔓

剖葬鳥　月野

行々子　和知（ヨコヤマ）

閑子鳥　沙山（モリ五）

青鷺　桑山（イハシロ）

閑子鳥　左

通鴨　愛年

鶺鴒　吉ち

閑子鳥　西川（モリ五）

鶯　魯生

山路を　左外

日暮れて　柿寿（サカミ）

人の住　宝壽（ハシヲテ）

年の中　閑子鳥　弘美

夕陰へ　閑子鳥　三子鳥

住那し　豊ち郎ち　鶺　仁里

たち寄れば　鶺　通し　鶺　柿女

餞念者　通し　鶺　文輪

鶏飼　交月

宵雨やかぜしてそよぐ蓼の簡　蓼庵

きのくりや粉も眼をふさぐ茅の風　竹良

秀作も粉ぐしくて居る粉通れば　楽五（イさご）

孫も居るあくきをを粉飼ひ　素吟

白の中を又ふる形ひたる粉のうを　磨拙

自由さうにうれの粉の坪の作を　莫子

粉飼や月白ふる山頂ふるけり　吟蓮

出り粉形ふる考ふるを心れ　代江

粉ふるるの粉ふる廣ふるふる所　志一（ヨコハマ）

粉考ひの影のうを時一川の月　辻梁

翡翠　翡翠や乗るも芦の撓ふ麻　良虎

翡翠や羽も口袋も寒もふるき　之引

孫く鮒や蓼の手ふる蓼ふ蓼ふや　等栽

結搭形あの中ふて蓼ふ鮒の　号笠

鮒の中ふふふふふや夕出り　玉郎女

蓼の鮒の寒形く蓼ふ味宮れ　坂谷（サト）

立姓一鮒の寒く撓て蓼ふふ　九井

鮒の寒や言口撓る夕ふふ　甫袁（ヒサイ）

鮒ふ人の味ふ蓼ふ命ふ卵、　市月

お蓼ふ人ふ鮒の寒ぬ寒形ふ　白山

鮒ふ寒や原ふふも寒ぬ蓼のお　相臣

鮒の鮒の皆　嬢り蓼ふ　蓼子れ　一守

味ふふ鮒ふハふ月味ふ　宇山

蚊

蚊柱　蚤　蠅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蚊遣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 魚

[illegible] 蓑塚（サヒミ）

[illegible] 江

[illegible] 上毛 松笠

[illegible] 元

[illegible] 女

[illegible] 三

[illegible] 候

[illegible] 舟

[illegible] 水

[illegible] 早

羽蟻

[illegible] 嫁の俤う[illegible]

子子

子子の[illegible]

子子の[illegible]

子子や井の[illegible]

水馬

[illegible]の子も[illegible]

[illegible]々[illegible]

舞々

[illegible]

松魚

[illegible]外も[illegible]

出し[illegible]

[illegible]

[illegible]

行門へ来るる鮒の松魚り哉　鈴屋
算盤とそろぬ強ら中初鰹　寧左
鮒家も切りて杉より来れ魚　素雄
杉一分て又生ハ松魚や人の中　素竹
鮒市と生分て一色の松田哉　浪光
人のまて又まくられ初松魚　畏侯
乗味のよき麦人哭人や初鰹　扶久也
魚四つや杉四よりるまつめ一ら　竹良
漕法くや日れ出らうの松魚舟　京京　晩秀
逢生や拾ち一天ゆる屋の帽　大坂　小窓
四まわ一森やうを月ハ帽さく　乙瓢
白いまく法き芝形也鮒の帽　寸松

世を外て百まくも帽の釣森ハ　魚ヒ
釣くとき見くて来くて帽の宵　風谷
森まくや投屋詩をめ一宵の月　上毛　野屋
森て百まり新て帽て月と風　一泊
初投屋の移くまり一枝三枝哉　秋圃
投屋まて世まく百戸口ハ　雲寿
作向ま帽一まの市まり哉　野雲
百まくの百まくを投屋の月　二休
を百や森まくの帽て風　寧左
まり投屋や釣り寄窓の風まく　窓月
投屋初て森て高まる百戸ハ　之引
よん風の投まも入ぬ小部哉　三石

蚊帳　史葉

紙帳　竹舎

扇　草頁（サカミ）　下サ　彩色

上毛　西原

帷子　重風

書　丙

團扇　畔成

日傘　竹舎

横町へ流れ込む日や夏　羽山（奇シ）

流れ尺々の稚うめる日や沢　精一（上サ）

さまざまの傘ひらき日傘　西涼

枝と突る立ちさまの日　有隆（東京）

夏の山

流れ寺五尺ばかりの夏の山　寥左

黄色の雲もつかぬ夏の山　茅志

白雲を踏て峯味ふ夏の山　結中（サカミ）

こだ杉の一色立て夏の山　巨水（佳中）

暮ぬるの月も出て夏の山　清山（ヒタキ）

夏野

雨雲のふるる重る夏野哉　宇山（ミカハ）

さまざまの夏野の夏野　寿山

夏月

きゝと吹や夏野の夏小風　二休

夏月を流や潮汐時の夏の月　梨妻

江戸出の宵やまだ夏の月　洋々

夏の月を掬ひ捨てゝ夏の月　妻梅（三ノ）

ぬれ笹のうへや夏の月　素堂

いつて居て変へ出る夏の月　きく女

森をぬけて流れや夏の月　弘乃

面白れ一度や夏の月　之引

振てゝる子の白ひや夏の月　碧水

新く本も望て社や夏の月　茅原

松ばかりの蝋燭や夏の月　乙瓢

夏の露

松島や雄島の夏露の中　梨妻

夏の雨

夏

六月

六月之部

六月や　畑を隔れ　湖水　寒生

六月も半ばとなれば　草の陰　竹舎　寒生

六月や　寄やしまひる　傾雨　義茅

入梅

一声きゝ　六月之　坊　泊　義来

その桑の　赤ちゃや　入梅と　鳴る恩　文礼

名の羽の　陸ゝ　入梅　入梅　上り　対九

入梅や　出ようあて　書　寒　琴堂（カヒ）

釣りを　入れ　入梅の　時　鳴り　寒左

居変の　冷ときき　入梅の　寒　乳　梅女

入梅　鳴や　木の　百ゝ　風　蓬仙

船風

船風ゝ　ゝや　伏　赤の　夕　鳴り　涼坪

船風や　足ゝ　ゝ　鳴　涼　出　吟風

船風や　寺　侍　赤の　ゝ　出　島　三千雪

船風や　八ゝ　ゝ　雪　雪　朱雪（フシン）

船風や　鳴ゝ　出ゝ　ゝ　船　宇山

舊祇園會
新八坂祭
八雲祭
須賀祭

夏祭

祇園会や花さしうつる所出り　一時
祇園会や むらしの金森風　素明
三ツ方帯ゝ子も恋ひ帯ゝ　竹良
けりやきゝのちゝ人参よ　寿木（サカミ）
夢ひたき子ゝうゝ通る乘り邪　柳女
汗ゝゝをしき袋を　信兄
面をうるの口取　静雲
面をやたまゝすこし　森殘
面をや御宮の御所ゝ　玉操
をしゝ雨傘ゝゝくゝゝ　汲古
参の面はゝゝめて　素雄
いさゝの形出ゝ　之引

雨乞

嘉定

雨の陣

雨の降やゆゝしきうゝ　二変
雨の降やゝゝ　帰仙
流せ書る延参ゝ　所仙
ゝ弱ゝ　卜早
り出ゝ　ゝ石
細ゝ市祇ゝ　ゝ移
船形ゝ　弘美
川社　森猫
形代　之引
形代や望月ゝ　彦豪
形代の流れゝ　ミヤ野仙
形代よ神風　亜百

御祓

[illegible]人[illegible]き田植歌　芹舎
[illegible]の遠ふ田植中村　坂　云松
[illegible]田植歌　[illegible]
[illegible]の結向[illegible]田植[illegible]　旭石
[illegible]田植[illegible]　三方ヘ　[illegible]
[illegible]田植[illegible]　[illegible]
[illegible]田植唄　精治
[illegible]の田植[illegible]　一東
[illegible]の子[illegible]　コヌ　樽袁
[illegible]田面[illegible]　悟堂
[illegible]田植[illegible]　仁星
[illegible]田植[illegible]　三雨

苗[illegible]の先く[illegible]隠[illegible]田植[illegible]　上ヤ　杉槍
田植唄[illegible]中山[illegible]　[illegible]
植上[illegible]月[illegible]田面[illegible]　[illegible]夕
[illegible]山[illegible]田植[illegible]　宇山
苗植[illegible]　九　杉　ムサシ　幼安
玉苗中植[illegible]　ヨバリ　三槍
山[illegible]　ムサシ　梅家
苗[illegible]方[illegible]星の表の[illegible]　ウコ　寿喰
[illegible]川[illegible]苗の[illegible]　一洗
[illegible]苗の考[illegible]植　イヘ吉　早山
植[illegible]苗の[illegible]　仙吉
植[illegible]　苗　兮山

川骨

川骨や浮ちゝ片日和　彩山
川骨や折ふしまぶる拾毛　旭石
川骨の葉や蛙の鏡　ホウ　新月

藻の花

藻の葉や流せもたゝぬ根ぶし　星雨
藻の花の石ゝ絡りて咲たれ　コンコ　月来
さゝ波も立やゝ藻の葉うれ　柳女
藻の葉や又屋生ゝ生ゝ枯ぬ　英子
藻や仏よゝゝ咲ゝ遠　素雄

萍

萍やおもゝ枯ぬ　エサ　社彩
萍や志ゝ枯ゝ　周光
ゝゝもよゝゝ葉や風次才
萍や志ゝ枯ゝ月の影　朱石
萍や寒ゝ又ゆる葉ゝ　李々

萍よちゝ紅又ゆる浮生れ　来葉
萍の葉ゝや日のうゝ　時走れ
萍やさゝ波しゝ寄の星　所星雨

忘草

忘草　乱身折ゝへも枯れ　エキ　青峡
名も葉も少て咲ゝ　忘子　冬光
又ゝ生の出来ぬ葉ゝ　忘子　魚目
摘むゝのゝゝ優しや花の色　萩山
ゝの色の赤ゝ生れの色　之引

紅の花

百合

百合咲や衣掛ゝ紙の糸　晩節
月ゝ山の陰ゝ　市れ
ゝ形ゝ花ゝ百合の色　可葉
花の白ゝゝ百合の色　嘉角

雖石合や起して尺くき毛の毛　吾七

石合さくや さくも仕ふさくろ　下サ毛　徹

うつむきて毛吸百合のすくられ　桂毛女

蟬なきやすきや苦もも毛のさく　遠字

まくさくもおすめ毛や毛は毛　乙鶏

わくてもすくやうかうの毛　十毛

世の毛の古きも教ゆう苦の毛　毛老

ゆくくくくくくもきん苦の毛　仕江

番きれてさくるの白ふや苦の毛　カヒ　京風

毛掃の毛おれふいう苦毛毛　仁里

夏菊

夏毛や毛を洗きれの毛　不毛

夏毛や毛をきの仲おくき　袋地

芝毛や多陸き毛も敷きく　サヌミ　鈴字

夏毛や秋の古ろも紙はゆく　玉採

芝毛や百を三りの古ろき　耕石

撫子

空保蛙の古ホくく蛙子　ミノ　盃投

きくくきや猫くも尺ゆる所　有毛

蛙ゆきやくくき毛も又　盃百

蛙くきや優くうの尺ゆ　祇先

石菖

石菖や伺毛くくくむ毛の高　ヨヌマ　清呼

石菖や鉢のくくき毛の紙う　桂圃

金銀花

毛ゆ毛の所くきれやう　金張毛　上サ　器裏

夢毛きくきの於きれ金張毛　地茅

合歓花

合歓咲や古毛くくく夕日影　道水

[illegible]

一時　堀江　玉孫　伝吳　俳諧　竹舎　十徑　玉水　二休　大坂　李律　発句　書山

栗の花

[illegible]

柘榴花

[illegible]

桑摘

[illegible]

青梅

[illegible]

之引　月影　馬城　仁足　不退　弘美　遊糸　宇山　少雪　風象　五丈　三友

青柚

[illegible]

茄子

[illegible]

雷の音く柳や　まつ　あをい　　弘美

切てもく切てもの　きりもなく　柳　長

きりく竹芽子の　雀　越　こ　　二海

風の板を又付　こ　竹　を　蓑

蓑く降よ　きりもく　竹　蓑　定

赤とく紅よりも　赤　竹　蓑　老

蓑竹や風の　蓑　く　新　こ　き　　サト　き　水

蓑竹や　新　こ　百の　吉　　雪　定

蓑竹や　ゆく　ゆく　月　ゆき　　スギ　柳　老

蓑竹や里　ゆく　ゆく　麦の　中　　スミ　松　高

蓑竹や　竜　よ　日　ゆく　　戦　ゆく　　法　光

鳴やゆく　入　ゆく　ゆく　新の　緑　　竹　良

今年竹

若竹

蟬

初緑の　鳴や　其　本も　言　ゆく

ゆく　ゆく　ゆく　緑の　ゆく　ゆく　　ヒセン　貞　栄

堰めれの　係　鳴　ゆく　緑の　高　　高　之

格　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　緑の　高　　清　年

鳴　ゆく　も　新　ゆく　緑の中　ゆく　　都　園

緑　鳴　や　竜の　高　ゆく　下り　坂　　高　雄

分入　竜　ゆく　ゆく　緑の　梢　ゆく　　若　志

緑　鳴　ゆく　草　木の　新　き　や　ゆく　　坂　山

たゆりと　む　白の　晒　市　や　緑の　高　　対　凡

新　ゆく　の　ゆく　ゆく　ゆく　緑　栄　ゆく　　宇　山

夜　引　ゆく　向　の　ゆく　ゆく　緑　栄　ゆく　　亞　平

ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　緑　栄　ゆく　　アンコ　西　古

浮巣

初緑の　鳴や　其　本も　言　ゆく

ゆく　ゆく　ゆく　緑の　ゆく　ゆく　　ヒセン　貞　栄

堰めれの　係　鳴　ゆく　緑の　高　　高　之

格　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　緑の　高　　清　年

鳴　ゆく　も　新　ゆく　緑の中　ゆく　　都　園

緑　鳴　や　竜の　高　ゆく　下り　坂　　高　雄

分入　竜　ゆく　ゆく　緑の　梢　ゆく　　若　志

緑　鳴　ゆく　草　木の　新　き　や　ゆく　　坂　山

たゆりと　む　白の　晒　市　や　緑の　高　　対　凡

新　ゆく　の　ゆく　ゆく　ゆく　緑　栄　ゆく　　宇　山

夜　引　ゆく　向　の　ゆく　ゆく　緑　栄　ゆく　　亞　平

ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　緑　栄　ゆく　　アンコ　西　古

浮巣

月影をわくゝ蘭を浮置て
蛍の柔を除てさゝ毎の掠
よりわしの根もたゝ浮菜沙
浮菜又ハ青詠ぬ舟の掛ゝ
その者を皆伸しなる如沙
面の根よりきゝたゝく水鶏沙
長ゝね根を又たゝく水鶏れ
因をきき寄ゝ水鶏れ
寄ゝ竹ゝ水鶏
入相の鐘を相図ゝ水鶏れ
竹子因をれ自ゝ鳴れ
宵寄ハ今叩たゝ水鶏

湖多　風係　作苦　弘美　空羅　イヒコロ 庭川　諫重　月窓　カヒ 再也　サト 守一　收之　未毛女

水鶏

すゝ〻ゝ寄ゝ除れ水鶏沙
寄の戸の根ゝ叩れ水鶏
水寄やゝ水鶏ゝ鳴ゝ根ゝ
寄ゝ寄ゝ雲ハ鳴水鶏

沙蟹　坊女　玄村　イスキ 入二

水鶏鳴ゝ
近ふ人をゝ
人ゝ寄ゝ羽抜鳥
本の面の影ゝ
ゝ寄ゝ羽抜鳥沙
ゝゝ寄ゝ蒔子れ
ゝゝ寄ゝ蒔子ゝ
鳥を蒔子ゝ
宮姫の羽ゝ蒔子ゝ

弘美　九石　墨雨　南窓　乙瓢　リンヒ 后宰　致保　寒左

羽抜鳥

鹿の子

影子 若子 弘美
神さび人 若子 弘美
隆の山の照射 半窓（イヨ）
閑水き 少雪
照射
火串 火串さび 吹風
初り 初り 巴豆
けたのさらさ 火串 子丑
物さび 物 卜早
火串
さびさび 柄女
五さび 走石
山の 伯兄
五の 伯兄
五の 条（ヒサ）
五さび

夕月の影 千之
篠の 篠の光り 篠
汐 汐の 夕篠
白山社 曽 篠 平山
月 月 月 篠 篠
若 若 若 篠 二体
布 布 布 単物 末柏
惟子 惟子の 惟子 惟子 竹仙
惟 惟 惟 紀 和 陳聖
惟 惟 惟 紀 和 金聖
五 五 五 人 五 凉

辻々花

時雨や　枝々うつる　山の影　祈舎

うゝ時雨や　他人のやうに　孤さまり　仁星

時雨や　降るまゝ　降るまゝの　葉の音　法兄

唯子の　若き人や　孤りそゞろ　月巷（シナノ）

祝ひ日の　菜屋辻すゝ　朝の内　涼坪

緑雨うゝ　小鼓を　伸て　辻々　竹良

おもゝ　門を　忘れ　辻々　羽山（ヤサシ）

若き形　しも　降るまゝ　辻々　椋水

いたゞく　人の　降るまゝや　辻々　杜良

辻々を　人まを　しろすゝ　れ　孝吉